

National Institute of Informatics

国立情報学研究所
平成16年度 要覧

2004

National Institute of Informatics

C o n t e n t s

- 1 はじめに
 - 2 沿革
 - 3 運営会議・アドバイザーボード構成員・名誉教授・特任教授
 - 4 国立情報学研究所の特色

 - 6 国立情報学研究所における研究・教育
 - 6 情報学の基礎研究
 - 7 ネットワークと計算機システムの研究
 - 8 ソフトウェアの研究
 - 9 マルチメディア情報の研究
 - 10 知能システムの研究
 - 11 人間・社会情報の研究
 - 12 学術研究動向の研究
 - 13 各教員の研究テーマ一覧
 - 16 実証研究センター
 - 17 情報学資源研究センター
 - 18 大学院教育

 - 20 国立情報学研究所における大型プロジェクト
 - 20 ナショナル・リサーチグリッド・イニシアティブ
 - 22 国際学術情報流通基盤整備事業

 - 24 国立情報学研究所における事業
 - 24 学術情報ネットワーク
 - 26 目録所在情報サービス
 - 28 情報検索サービス
 - 28 オンライン学術用語集
 - 29 学協会情報発信サービス
 - 30 電子図書館サービス
 - 31 GeNii (NII学術コンテンツ・ポータル)

 - 32 研究協力・知的財産
 - 33 研究成果の普及
 - 34 国際展開
 - 36 研修事業
 - 37 所員・決算
 - 38 組織
 - 40 大学院学生一覧
 - 41 施設・所在地
-

はじめに



国立情報学研究所は、この4月から、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構の一員として新しくスタートしました。これからは、本研究所固有の使命である、自然科学から人文・社会科学にわたる幅広い情報学に関する研究、大学院教育、学術情報の革新的な流通及び発信の事業に加えて、情報・システム研究機構を構成する他の3つの研究所との連携による新しい研究分野の開拓を目指します。さらに、学術研究機関の知的財産を広く社会に役立てるという観点から、本年度、すべての大学共同利用機関法人にわたる知的財産本部が設置されました。今後は、これまで以上に、大学や社会の要請に耳を傾け、変革を先取りする勇気が求められています。

進展著しい情報技術は、いまや社会活動を推進し、人々を結びつける力を持った社会基盤として定着してきました。例えば、携帯電話は人が求める膨大な機能を一体化して広く普及し、情報技術のユビキタス化を加速しています。こうして社会の隅々まで浸透しつつある情報技術は、生活を変え、産業や通商を改革し、教育・文化を変え、人々の新しい絆をつくり、それを保証するネットワークの安全利用に関するセキュリティ確保や新たなネットワーク倫理を要請しながら、社会そのものを変革してきています。こうした中で、本研究所の意義は一層重要になっています。

平成16年度は本研究所にとって大きな変化の時代となりますが、引き続き、情報学に関する研究の更なる向上に取り組み、研究と事業を車の両輪とした本研究所の特徴を最大限に活かし、情報学・科学技術はもとより、人間・文化の一層の向上、社会経済の発展を目指し、尽力していきたいと思っております。ますますのご支援とご指導をお願いいたします。

平成16年5月

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構
国立情報学研究所長

末松 安晴

沿革

昭和48年(1973年)	10月	文部省 学術審議会第3次答申(学術振興に関する当面の基本的施策)において、基本的政策として、「学術情報の流通体制の改善について」提言
昭和51年(1976年)	5月	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和53年(1978年)	11月	文部大臣から学術審議会に対し「今後における学術情報システムの在り方について」諮問があり、昭和55年(1980年)1月に答申
昭和58年(1983年)	4月	東京大学文献情報センターの設置(情報図書館学研究センターを改組)
昭和61年(1986年)	4月	学術情報センターの設置(東京大学文献情報センターを改組)
平成9年(1997年)	3月	国際高等セミナーハウス(長野県軽井沢町)竣工
平成12年(2000年)	2月	学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋)内に移転

平成9年(1997年)	12月	文部省、情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議を設置
平成10年(1998年)	1月	学術審議会において「情報学研究の推進方策について」建議、情報研究の中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することを提言
	3月	情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議、報告書を提出
平成10年(1998年)	4月	情報研究の中核的研究機関準備調査室が設置され、5月に委員会が発足
平成11年(1999年)	3月	情報研究の中核的研究機関準備調査委員会、報告を提出
	4月	情報研究の中核的研究機関創設準備室が設置され、5月に準備委員会が発足
	7月	情報研究の中核的研究機関創設準備委員会、中間まとめ提出
平成12年(2000年)	3月	情報研究の中核的研究機関創設準備委員会、報告書提出

平成12年(2000年)	4月	国立情報学研究所の設置(学術情報センターを廃止・転換)
平成14年(2002年)	4月	総合研究大学院大学 情報学専攻の設置
	9月	研究企画推進室の設置
	10月	総合研究大学院大学国際大学院コース(情報学専攻)の設置
平成15年(2003年)	1月	グローバル・リエゾンオフィスの設置
	4月	リサーチグリッド連携研究センターの設置
		国際学術情報流通基盤整備推進室の設置

平成16年(2004年)	4月	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所の設置
--------------	----	------------------------------------

運営会議

所長の諮問に応じ国立情報学研究所の運営に関する重要事項の審議を行います。

有川 節夫	九州大学理事	坂内 正夫	国立情報学研究所副所長 国立情報学研究所研究総主幹(兼務)
稲垣 康善	愛知県立大学情報科学部教授	根岸 正光	国立情報学研究所国際・研究協力部長
岩男 寿美子	武蔵工業大学環境情報学部教授	東倉 洋一	国立情報学研究所開発・事業部長
田中 英彦	情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長	浅野 正一郎	国立情報学研究所情報基盤研究系研究主幹
田中 穂積	東京工業大学大学院情報理工学研究科教授	丸山 勝己	国立情報学研究所ソフトウェア研究系研究主幹
羽鳥 光俊	中央大学理工学部教授	山本 毅雄	国立情報学研究所情報メディア研究系研究主幹
村岡 洋一	早稲田大学副総長	小山 照夫	国立情報学研究所人間・社会情報研究系研究主幹
安岡 善文	東京大学生産技術研究所副所長	宮澤 彰	国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹
六本 佳平	放送大学特任教授	山田 茂樹	国立情報学研究所実証研究センター長
若林 克己	群馬大学名誉教授	安達 淳	国立情報学研究所情報学資源研究センター長
	(以上五十音順)	上野 晴樹	国立情報学研究所知能システム研究系教授

21名

アドバイザーボード

情報学に関する研究並びに学術情報の流通のための基盤の開発及び整備等に関する諸問題について所長の諮問に応じます。

青木 利晴	NTTデータ(株)取締役相談役	土居 範久	慶應義塾大学名誉教授
阿部 博之	東北大学名誉教授	中村 桂子	JT生命誌研究館長
有馬 朗人	参議院議員	長尾 真	情報通信研究機構理事長
池端 雪浦	東京外国語大学長	長倉 三郎	日本学士院長
生駒 俊明	東京大学名誉教授 (日立金属株式会社代表執行役取締役)	野崎 弘	国立博物館理事長
井内 慶次郎	(財)日本視聴覚教育協会長	野依 良治	理化学研究所理事長
井上 孝美	放送大学学園理事長	本田 和子	お茶の水女子大学長
内田 勇夫	(財)日本宇宙フォーラム顧問	松野 陽一	国文学研究資料館長
大崎 仁	大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事長	宮地 貫一	衛星通信教育振興協会顧問
沖村 憲樹	科学技術振興機構理事長	宮原 秀夫	大阪大学総長
小野 元之	日本学術振興会理事長	吉川 弘之	産業技術総合研究所理事長
梶原 拓	岐阜県知事		(以上五十音順)
熊谷 信昭	兵庫県立大学長 大阪大学名誉教授	Edward E.David,Jr.	元米大統領科学顧問
黒澤 隆雄	国立国会図書館長	James L.Flanagan	ニュージャージー州立大学研究担当副学長
坂元 昂	メディア教育開発センター名誉教授	John M.Thomas	ケンブリッジ大学教授
佐和 隆光	京都大学経済研究所長	Lewis M.Branscomb	ハーバード大学名誉教授
清水 司	渡辺学園理事長(東京家政大学長)	Lotfi A.Zadeh	カリフォルニア大学バークレイ校教授
遠山 敦子	前文部科学大臣 大学評価・学位授与機構客員教授	David J. Farber	ペンシルバニア大学教授
戸塚 洋二	高エネルギー加速器研究機構長	Takeo Kanade	カーネギーメロン大学教授
		Robert Kowalski	インペリアルカレッジ名誉教授
		Gerard Van Oortmerssen	オランダTNO-Telecom所長

39名

名誉教授(学術情報センター)

大野 公男	元学術情報センター副所長	山田 尚勇	東京大学名誉教授
市川 惇信	東京工業大学名誉教授	井上 如	元学術情報センター副所長
西田 龍雄	京都大学名誉教授		

5名

名誉教授(国立情報学研究所)

佐和 隆光	京都大学経済研究所長	内藤 衛亮	東洋大学社会学部教授
-------	------------	-------	------------

2名

特任教授

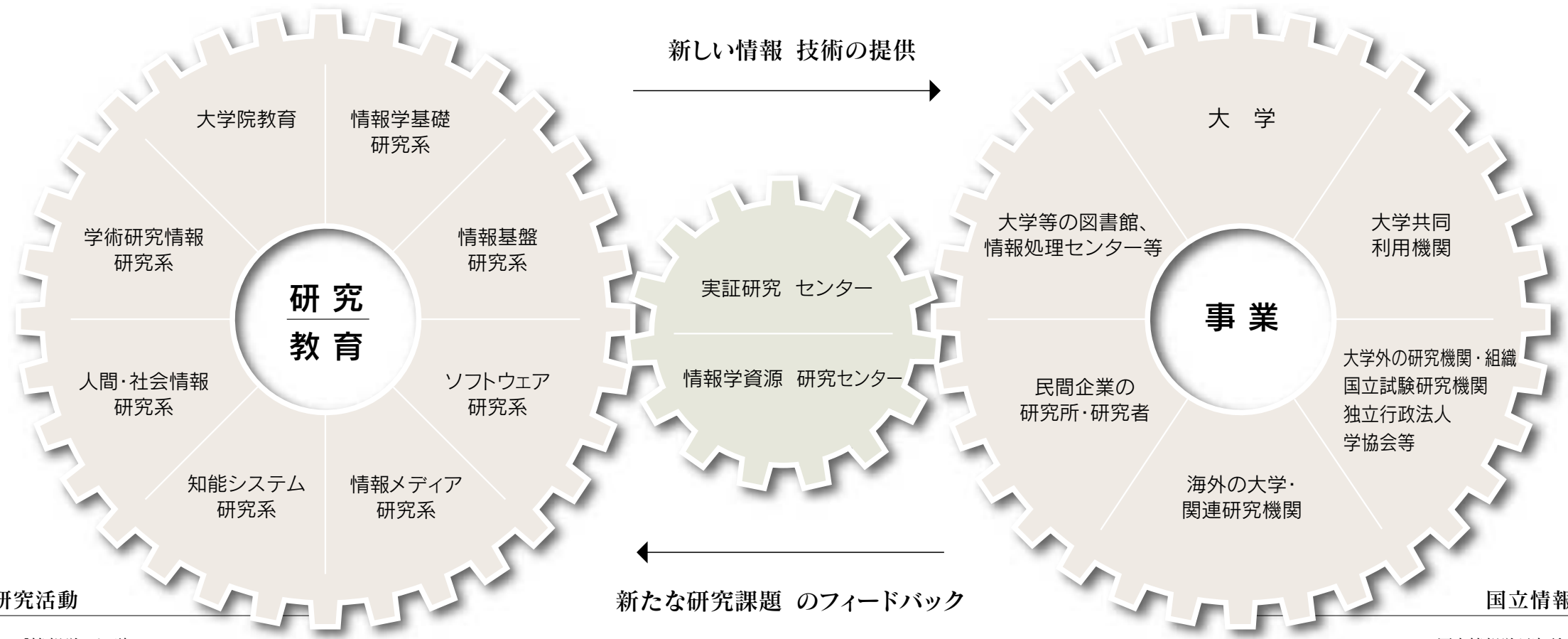
小野 欽司	早稲田大学客員教授		
-------	-----------	--	--

1名

研究と事業とを車の両輪として、総合的に推進 します。

国立情報学研究所は、情報学に関する総合研究に加え、学術情報の流通のための先端的な基盤の開発と整備を行う大学共同利用機関として、平成12年4月に設置されました。

国立情報学研究所では、長期的な展望の下に、ネットワーク、ソフトウェア、マルチメディアなどの情報関連分野の基礎から応用までの研究開発を幅広くカバーするとともに、全国の大学はもとより国立研究機関や民間企業の研究所との連携・協力を重視し、情報学研究を総合的に進めることを目指しています。



国立情報学研究所の研究活動

国立情報学研究所が対象とする「情報学」は、計算機科学や情報工学だけでなく、人文・社会科学や生命科学の領域も包含する新しい学問分野です。国立情報学研究所では、7研究系35部門、2研究施設8室及び連携・流動研究部門を設置し、基礎から応用までの総合的研究、学際性の追求、産学官の連携、国際的な研究活動を指向した情報学研究を総合的に進めています。

国立情報学研究所における事業

国立情報学研究所では、学術情報基盤の構築・運用、大学図書館や学協会等との連携・協力、システム開発とその運用に関連する業務を行う開発・事業部を置き、研究組織との密接な連携・協力の下に、研究者が学術情報基盤の整備に参画できる組織・体制を構築し、得られた研究成果を実証的に適用・実用化することにより、我が国の学術情報基盤の整備・強化に貢献します。

総合的研究	学際性の追求	産学官の連携	国際的な研究活動	学術情報基盤整備の推進	大学院教育（博士課程）
情報分野において学術性の高い研究を自然科学から人文・社会科学まで広範かつ長期的に発展させ、基礎から応用にわたり、理論から実用化に至る研究を一体として行っています。	研究領域間の連携による横断的研究や幅広い学問分野の相互作用による学際的研究を推進することにより、学術研究の高度化・総合化のために有効な手段を提供し、学問全般の発展に寄与しています。	大学、国立試験研究機関及び民間研究機関との間の緊密な連携を図り、我が国における情報学の飛躍的発展を目指します。また、これらの機関と協力してプロジェクト型共同研究を実施し、研究成果の社会における活用を促進しています。	諸外国との研究者交流を活発に行い、国際共同研究を積極的に実施することにより、国際社会への発信に努めています。また、国際的標準化活動にも貢献しています。	学術情報ネットワークの構築・運用、大学図書館等の所蔵する図書・雑誌の総合目録の作成、学術情報データベースの形成・提供や大学図書館職員に対する教育・研修等の事業を通じて、我が国の学術情報基盤整備において重要な役割を果たしています。	総合研究大学院大学の基盤機関として情報学専攻（博士課程）を開設し、先端の情報学の素養を身につけ、広い視野と高度な専門知識や指導力を持つ研究者や技術者を養成します。

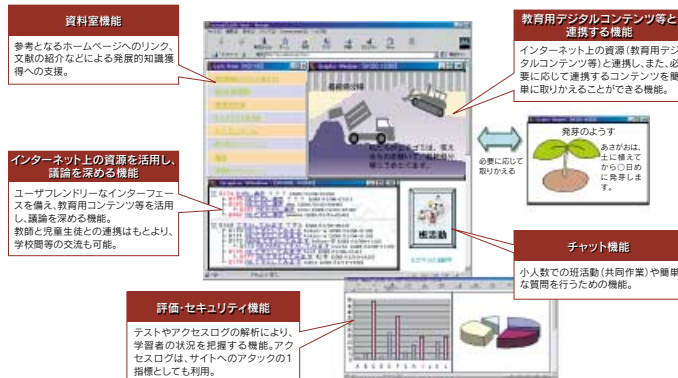
情報学の基礎研究

各研究系に対し基礎理論を提供

情報共有支援システム NetCommons

平成13年度より、国立情報学研究所と(株)NTTデータポケットの産学共同研究の下で、コミュニティ形成型遠隔教育システム「e-教室」および、それを発展させた「NetCommons」を開発してきた。特に平成14年度には、「NetCommons100本プロジェクト」を開始し、大学・研究機関・公的機関・非営利民間団体に広くよびかけ、NetCommonsを利用してインターネット上に情報共有コミュニティを作る共同研究を開始した。この共同研究には、慶応義塾大学・九州大学・東京大学をはじめとした大学・研究機関、日本を代表するNPOが数多く参加しており、現在、NetCommons導入支援サイトを設置して、導入の支援にあたっている。「NetCommons100本プロジェクト」には、！ NetCommonsを日本発の遠隔教育・情報共有プラットフォームとして根付かせる ” ささまざまな団体と共同研究を行う中で、日本型の情報共有のあるべき姿を研究し、ノウハウも含めて提案をしていく # 米国に比べて研究・開発・導入が遅れているe-ラーニングについて、日本発

NetCommonsプラットフォームイメージ



の性能のよいシステムを開発し、民間へ技術移転する という3つの目的がある。

(新井 紀子)

参考文献:「ネット上に学びの場を創るー情報共有が市民社会にもたらすものー」岩波ブックレット No.604 (2003. 9)。

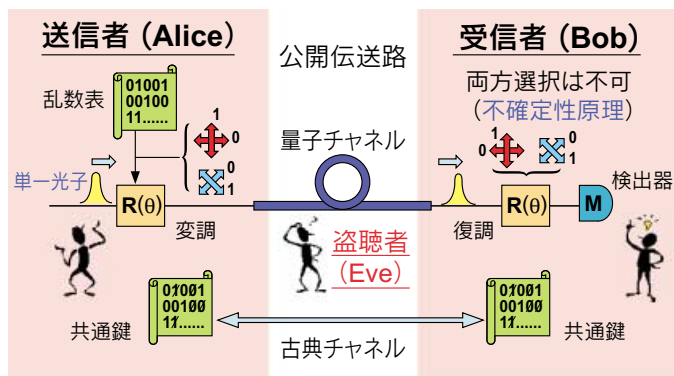
量子計算と量子情報

量子計算、量子情報は、量子力学の原理を用いた新しい情報処理の手法の開発を目的としている。例えば、ある種の問題に関しては、量子計算機を用いれば、通常の計算機よりも計算ステップ数が遥かに少なくて済む。また、量子暗号は100%安全性が証明されている。以上 は理論上の話だが、物理的実現の研究も、近年本格化してきた。そして、量子暗号は既に実用レベルの実験が行われている。ただし、量子計算機は、粒子間の相互作用を精密にコントロールしなければならないため、実証実験の域をまだ出していない。

この分野は、情報科学、物理学の最先端が絡む刺激的な分野で、その先には量子物理学と情報科学の融合という途方もない夢が広がっている。境界分野ゆえに参加者がまだまだ少ないのが残念である。

(松本 啓史)

量子暗号鍵配布の一例



その他の研究

- 量子エンタングルメントネットワークを用いたセキュリティー技術 (山本喜久、根本 香絵、Peter van Loock、松本 啓史)
- 新生代バイオポータルの開発研究 (藤山 秋佐夫、川本 祥子、水田 洋子、出宮 みのる、菅原 秀明、北本 朝展、武田 秀明)
- 大規模連立一次方程式および最小二乗問題の反復解法の研究 (速水 謙) ● 逆問題の数値解法 (速水 謙、奈良 高明)
- 宣言的プログラミングにおけるソフトウェア発展の研究 (佐藤 健) ● 大規模な最適化問題を解くための効率良いアルゴリズム研究 (宇野 毅明)
- Semantic Webにおけるすべての人の為の高度な内容タグ付け (ナイジェル・コリアー) ● 発話と身振りの協調に関する研究 (古山 宣洋)
- 情報の意味を記述するために構造表現を導入した論理言語の研究 (兼岩 憲)
- 構成的論理における正規化手続き(プログラム実行)の複雑さの研究 (照井 一成) ● 脳における情報処理過程の解明 (植木 浩一郎)

ソフトウェアの研究

新たなソフトウェア概念を創出

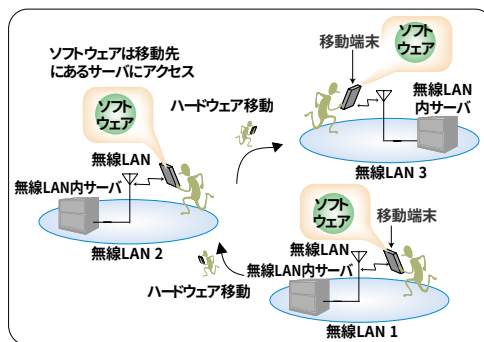
携帯端末向けソフトウェア開発・試験環境

無線LANはインターネットへの接続に広く利用されているが、今後は無線LANの通信エリア内に特化した情報サービス、例えば地図や地域情報の発信にも利用することが期待されている。しかし、こうした情報サービスを開発するには実際にノートPCやPDA、携帯電話などの移動端末を選び、移動先の無線LANに接続して動作を確かめる必要があるなど手間が大きい。そこでこの研究では移動端末を持って歩く代わりに、それらの移動端末の動作を再現するソフトウェア(エミュレータ)がネットワークを通じてLAN間で移動できるようにする。つまり、ハードウェアの移

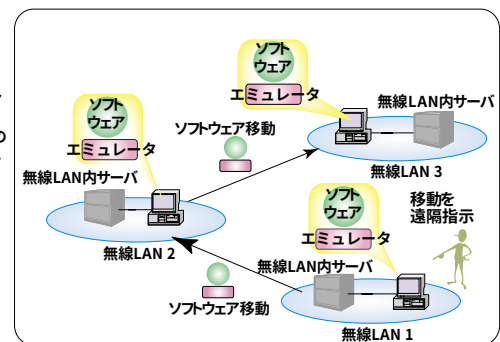
動をソフトウェアの移動で再現することにより、人間は移動しなくても場所に依存したサービスやそのコンテンツが正しく動作するかを簡単に調べられるようにする。

(佐藤 一郎)

参考文献: Ichiro Satoh, "A Testing Framework for Mobile Computing Software", IEEE Transactions on Software Engineering, vol.29, no.12, pp.1112-1121, December (2003)
佐藤一郎: "Flying Emulator: 携帯端末用ソフトウェアの開発試験環境", 情報処理学会論文誌, vol.43, no.12, pp.3765-3774, December (2002)



既存の移動端末向けサービスの開発・試験



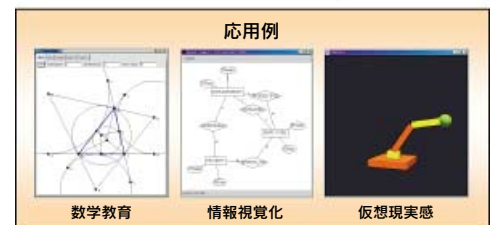
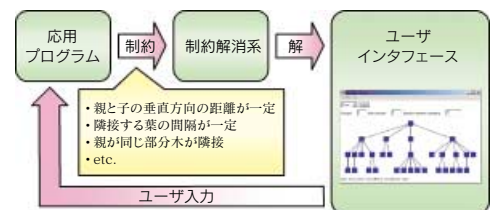
本手法の移動端末向けサービスの開発・試験

制約プログラミングとそのユーザインタフェースへの応用

制約を宣言的に記述することでプログラムを構築する手法である制約プログラミングについて研究しています。通常のプログラミングでプログラムは、目標を実現するための計算方法を手続き的に記述する必要があるのに対して、制約プログラミングでは、目標を制約として記述しておけば、制約解消系と呼ばれるシステムソフトウェアによって制約が自動的に処理されるため、プログラミングが容易になります。本研究では特にユーザインタフェースを応用対象とし、階層的な優先度を備えた制約を解消する手法を研究しており、これまでに制約解消系として、線形制約を扱うHiRise、2次元幾何制約を扱うChorus、3次元幾何制約と座標変換を扱うChorus 3Dを開発しました。

(細部 博史)

参考文献: 細部博史, 「対話型3次元アプリケーションのための幾何制約解消法」, 情報処理学会論文誌, Vol.44, No. 2, pp. 486-495, 2003.
Hiroshi Hosobe, "Hierarchical Nonlinear Constraint Satisfaction," in Proceedings of the 19th Annual ACM Symposium on Applied Computing (SAC'04), pp.16-20, ACM Press, 2004.



その他の研究

- 並列連想計算方式の研究 (高野 明彦)
- コンポーネント化による拡張型分散OSに関する研究 (丸山 勝巳、児玉 和也、日高 宗一郎、計 宇生、橋爪 宏達)
- 非数値計算向け並列処理環境に関する研究 (日高 宗一郎)
- 非時系列文書の解析とデータマイニングに関する研究 (高須 淳宏)
- 芸術表現活動のマルチメディアアーカイブに関する研究 (相原 健郎)

マルチメディア情報の研究

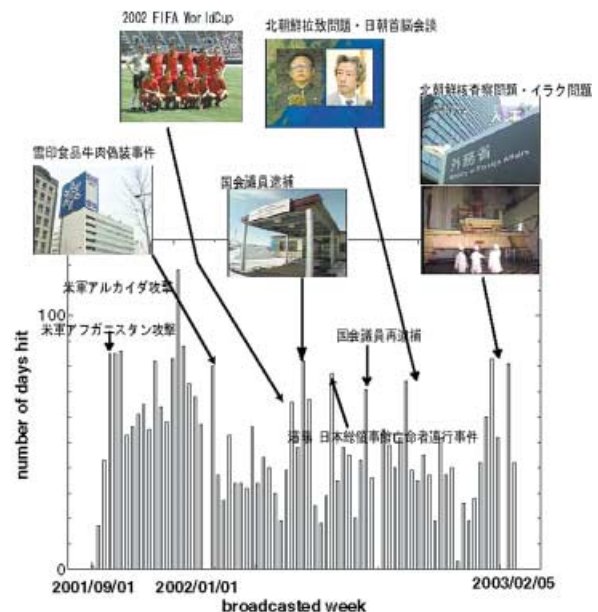
人間とメディアとの関わり方を追求

放送映像アーカイブのマイニングに関する研究

近年、ハードディスクビデオレコーダの普及など、一般家庭で映像アーカイブを実現できる下地が整いつつあり、数年すると数千時間規模の大規模放送映像アーカイブを誰でも利用できる状況になると考えられます。そうした環境では、このアーカイブから各人が本当に必要な情報を効率よく発見するための技術、すなわち、情報発見やデータマイニング技術が重要となってきます。われわれの研究グループでは、この考えに基づき、大規模放送映像アーカイブを対象とした、効率が良く有効なマイニング技術の検討を行っています。図は、18ヶ月分のニュース映像アーカイブを解析し、重要なイベントの発生状況を抽出・可視化し、関連する代表ショットを提示したものです。

(佐藤 真一、片山 紀生、孟 洋)

参考文献: 山岸史典、佐藤真一、浜田 喬、"大規模映像アーカイブのための映像断片照合の高速化" 情報技術レターズ, pp.157-158, 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), LI-17, 2002.
Shin'ichi Satoh and Norio Katayama, Chapter 27, "Indexing Video Archives: Analyzing, Organizing, and Searching Video Information," in Borko Furht and Oge Marques eds., "Handbook of Video Databases," pp. 651-678, CRC Press, Boca Raton, Florida, 2003.



多点入力デバイス(電子将棋盤)の開発と応用研究

盤の上に乘せた駒の位置と種類をコンピュータに読み取らせる、いわば将棋盤のような機能をもつ入力装置です。わたしたちの研究グループはヒューマンインタフェース研究の必要からこれを設計開発し、グラフィック芸術や教育学を含む各種応用を含めて研究しています。

この多点入力デバイスはRFID (ICタグ)を利用したものです。現在ユービキタスコンピューティングの分野で注目されている素子ですが、それとは全く異なる応用を与えたということで評価されています。

(橋爪 宏達)

参考文献: Masanori Sugimoto, Fusako Kusunoki, Hiromichi Hashizume, Design of an Interactive System for Group Learning Support, In Proc. of ACM Conference on Designing Interactive Systems (DIS2002), London, UK, pp.50-55, 2002



その他の研究

- 「学術・文化資料の長期デジタル・アーカイブ」の研究 (山本 毅雄、宮澤 彰、北本 朝展、神内 俊郎)
- マルチメディア情報通信基盤 (児玉 和也、上岡 英史) ● 電子図書館とフルテキストデータベース (安達 淳、加藤 弘之)
- 地理情報データベース (フレデリック・アンドレス) ● 三次元モデルの類似検索 (後藤田 洋伸)

知能システムの研究

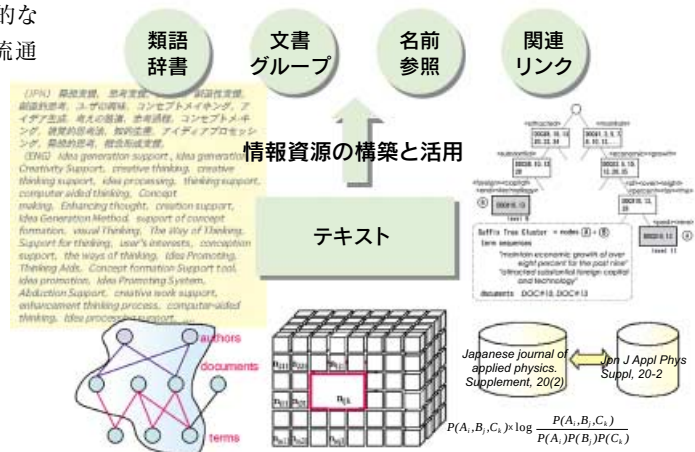
人間の知的な活動を支援するシステムを構築

「テキスト」の分析と活用に関する研究

文字を使って情報を伝える「テキスト」は、もっとも基本的な情報メディアの1つです。本研究では、電子的な形態で流通する多様な「テキスト」を分析し、有用な情報を抽出する方法について、様々な角度からのアプローチを試みています。また、このようにしてテキストから獲得した情報資源を活用するための情報システムの構築や運用について検討しています。このために、用語辞書の自動構築と検索システムへの適用、引用テキストの自動抽出による文書のグループ化とインデクシング、書誌・引用情報の同定などのテーマを設定し、学術文献や新聞記事からWeb文書にいたる、多様なテキストを扱いながら研究を進めています。

(相澤 彰子)

参考文献: Akiko Aizawa: Analysis of Source Identified Text Corpora: Exploring the Statistics of Reused Text and the Authorship, Proceedings of the 41st Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL-03), pp. 383-390 (2003)



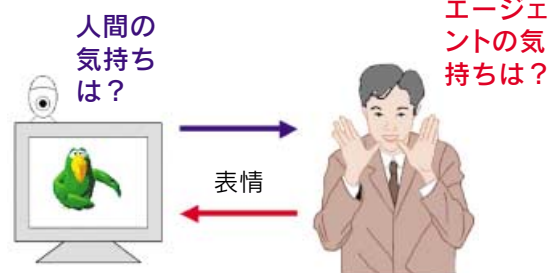
人間とエージェントの相互適応

MSエージェントを初めとする擬人化エージェントが広く一般に利用され始めている。エージェントはユーザの表情から気持ちを理解して適した行動を行うことが望ましく、逆にユーザはエージェントの表情やジェスチャから内部状態を理解できるようになる必要がある。これは、人間とエージェントが相互適応している状況であり、我々はその相互適応を促進するためにインタラクション設計を研究している。

まず、人間と擬人化エージェントがマインドマッピング(表情から気持ちへのマッピング)をお互いに学習して相互適応を実現する枠組みを提案する。両者は、相互読心ゲームと呼ばれるゲームを行うことにより、相手のマインドマッピングを学習していく。エージェントは、事例に基づく学習により、マインドマッピングを学習する。PCとCCDカメラを用いてこの枠組みを実装し、我々の枠組みで実際にマインドマッピングの相互適応が実現されることを実験的に示す。さらに、マインドマッピングの相互適応を促進するヒューリスティックスとして、

お互いの気持ちに分かり合える

=人間とエージェントの相互適応



適応干渉の許容、人間のマインド遷移の利用を提案し、被験者実験により、それらの有効性を示す。

(山田 誠二)

参考文献: T. Yamaguchi, K. Ohnishi, M. Agari, S. Yamada: Estimating a User Model with the Action Sequences in the Mind Reading Game between a Human and a Life-like Agent, 12th IEEE Workshop Robot and Human Interactive Communication (ROMAN 2003) (2003)

その他の研究

- 人との共存を目指した共生ロボットの研究 (上野 晴樹)
- エージェント技術・アクティブコンテンツの研究 (本位田 真一)
- 化学の実践的問題解決のための知的システムの研究 (佐藤 寛子)
- 人間の意図・行動の理解に基づく柔軟なヒューマン・マシン・インタラクション (杉本 晃宏)

人間・社会情報の研究

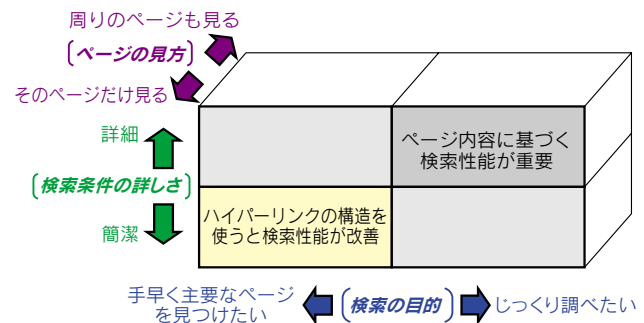
社会における人間と情報との関わり方を解明

「Web情報アクセスシステムの評価手法」の研究

Web情報アクセスシステムの評価を目的として、Webに特徴的なハイパーリンク構造などの特性を勘案し、モデル構築を行いました。Webにおいては、人間の知的活動の様々な領域に関する情報が提供されており、Web情報アクセスシステムの代表例であるサーチエンジンはWeb上の情報をアクセスするための手段として不可欠なものです。しかしながら、そのようなシステムの有効性評価は、諸々の技術的な理由により、容易ではありません。評価型会議およびテストコレクションは前記の問題に対する有望な解決手段です。ただし、それらはWebに適したものでなければなりません。

利用者が簡潔で曖昧性を含むクエリを使用し、上位10件程度の検索結果のみを閲覧することを前提としたモデルにおいては、リンク構造解析を用いた検索手法が有効であり、それ以外のモデルではリンク構造が考慮されていたとしても有意な効果は現れないことを確認しました。

(江口 浩二、大山 敬三、神門 典子)

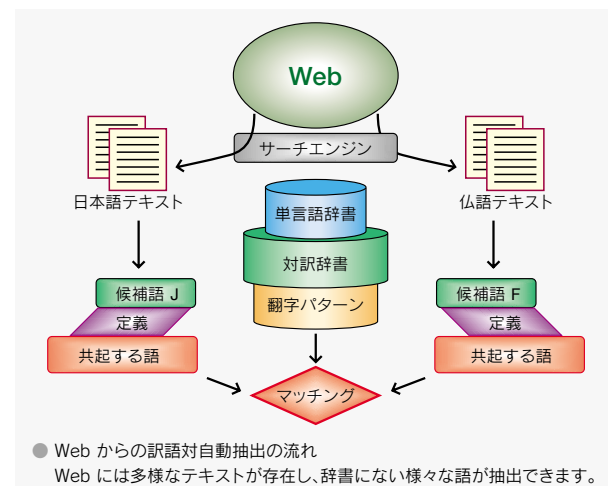


参考文献: Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kando, N., and Kuriyama K., "Evaluation Methods for Web Retrieval Tasks Considering Hyperlink Structure", IEICE Trans. Inf. & Syst. Vol.e86-D, No.9, pp. 1804-1813 (Sep. 2003)

Webからの訳語対自動抽出研究

近年、通信や交通手段の発達を受けて、日本語以外の言語に触れる機会が増えてきました。また社会の急速な変化に伴って、次々と新しい言葉が生み出されています。私たちは、こうした多言語社会において有用な対訳辞書の作成方法を研究しています。具体的には、日々更新され、新しい情報を含むWebから、新語や専門用語、固有名の訳語対を自動抽出する手法を開発しています。図は私たちが考える日仏訳語対自動抽出の流れを表しています。まずサーチエンジンに日仏の訳語を入力し、関連あるテキストを入手します。そこに含まれる語それぞれの定義や共起語を抽出し、辞書情報やカタカナ・アルファベットの対応に基づいて訳語対を抽出します。現在、訳語を含んだテキストの効率的な同定、訳語として対応する単位の認定、などが技術的な課題となっています。

(辻 慶太、影浦 峯、小山 照夫)



参考文献: Keita Tsuji, Beatrice Daille and Kyo Kageura, "Extracting French-Japanese Word Pairs from Bilingual Corpora based on Transliteration Rules", Proceedings of the Third International Conference on Language Resources and Evaluation, 2002, pp.499-502.

その他の研究

- 知識の表現と利用 (小山 照夫)
- 研究者情報に関するデータベースとWebの連携方法の研究 (大山 敬三)
- 情報科学技術と社会制度の係わりに関する研究 (東倉 洋一)
- 情報検索システムの評価 (神門 典子)
- 専門用語のダイナミクスに関する研究 (影浦 峯)
- 大学ネットワーク管理者のための法情報ブログ構築に関する研究 (岡田 仁志)
- 適応型情報アクセス手法に関する研究 (江口 浩二)
- 専門分野における新語の寿命に関する計量的研究 (辻 慶太)

学術研究動向の研究

学術研究における情報の仕組みを解明

「引用文献索引データベース」(CJP)を用いたビブリオメトリクス研究

大学改革が進む中で、「研究評価」への意識、関心が急速に高まっています。引用索引データベースを集計分析すると、論文の生産数とそれらに対する引用数が算出でき、これは、研究の活動度や研究水準の指標の一つとして利用が進んでいます。この方面では、米国ISIの引用索引データベースSCIにおけるインパクトファクタ(IF)がよく用いられますが、その「乱用」に対する批判も多く聞かれるようになってきました。本研究所では、わが国の和文、欧文の学会誌を広く採録対象とした「引用文献索引データベース」(CJP)を作成しており、これに対する統計的分析を行っています。表は、ISIと同様の算式によりCJP採録誌のIFを算出し、その上位20誌を示したものです。これは和文誌を含めたわが国の学会誌におけるIFとしてはじめてのものです。今後データベースの充実に並行して、このようなビブリオメトリクス研究をさらに進めていきます。

(根岸 正光、孫 媛)

NII「引用文献索引データベース」(CJP)におけるインパクトファクタ試算結果

雑誌名	論文数 (98-99年)	被引用回数 (2000年)	自己引用 回数	IF
地質学雑誌	178	137	45	0.77
鉄と鋼：日本鉄鋼協会誌	289	180	60	0.62
Japanese Journal of Applied Physics. Pt. 2: Letters (日本応用物理学)	959	565	159	0.59
日本音響学会誌	242	122	26	0.50
日本造船学会誌	281	137	70	0.49
日本応用磁気学会誌	785	371	224	0.47
日本ロボット学会誌	397	182	79	0.46
ISI International (日本鉄鋼協会)	361	160	82	0.44
コンクリート工学年次論文報告集	1100	463	337	0.42
粉体および粉末冶金	423	176	120	0.42
分析化学	294	122	56	0.42
セメント・コンクリート論文集	308	123	59	0.40
精密工学会誌	640	249	130	0.39
情報処理学会論文誌	792	291	116	0.37
Japanese Journal of Applied Physics. Pt. 1: Regular Papers & Short Notes (日本応用物理学)	3037	1087	646	0.36
Bioscience, Biotechnology and Biochemistry (日本農芸化学会)	952	347	186	0.36
日本セラミックス協会学術論文誌	493	178	99	0.36
都市計画、別冊、都市計画論文集	309	111	72	0.36
Chemical & Pharmaceutical Bulletin (日本薬学会)	752	257	209	0.34
Analytical Sciences (日本分析化学会)	504	166	79	0.33

参考文献：M. Negishi, Y. Sun, K. Shigi, "Citation database for Japanese papers: a new bibliometric tool for Japanese academic society", Proceedings of the 9th International Conference on Scientometrics and Informetrics: ISSI2003, edited by G. Jiang; R. Rousseau & Y. Wu, pp.208-220, Dalian University Technology Press, Dalian, China, August 2003. (Also to appear in Scientometrics, 2004)

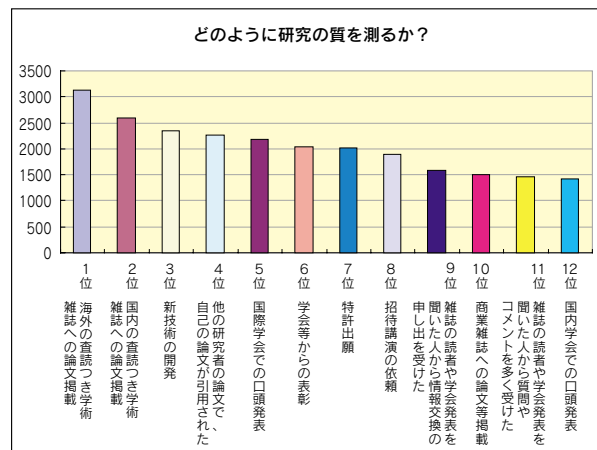
孫媛、根岸正光「日本語学会誌論文間での相互引用統計に基づく学会間関係性の測定とその応用可能性」、情報知識学会第11回研究報告会講演論文集、pp.5-8, 2003.

創造的な研究チームの特性と識別に関する研究

全国の情報学研究者に、「創造性や研究の質を測るのに妥当だと思う目安は、何だと思いますか」というアンケートを行いました。12の項目のそれぞれに対し、相対的な妥当性を「0」から「10」までの点数で評価してもらい、その結果に答えた人数を掛けて合計したところ、図のような結果となりました。最も重要だと考えられているのは「海外の査読つき学術雑誌への論文掲載」であり、最も低い評価だったのは「国内学会での口頭発表」でした。今後も、独創性のある個人やチームに関する研究をさまざまな角度から進めていきます。

(矢野 正晴、柴山 盛生)

参考文献：Shibayama, M & M. Yano, "R&D Activities in Japanese Companies and Universities," Creativity and Innovation : Cross-Cultural Innovation, Deutsch Universitäts Verlag, 2004. (印刷中)



その他の研究

- 研究システムの国際比較 (西澤 正己、孫 媛)
- 特許出願から見た産学連携についての研究 (矢野 正晴、柴山 盛生)
- 情報科学関連研究のネットワーク構造とその動向把握に関する調査研究 (西澤 正己、孫 媛)

各教員の研究テーマ一覧

情報学基礎研究系

新井 紀子	●命題論理の証明の複雑さに関する研究 ●情報共有・コミュニティ形成型遠隔教育システムの研究開発
井上 克巳	●結論発見と理論形成に関する研究 ●帰納と発想に関する研究 ●知識更新に関する研究
宇野 毅明	●デーミングやゲノム情報学での大規模計算の高速化アルゴリズムの開発 ●離散、特に列挙アルゴリズムの計算量解析 ●スケジューリング、施設配置など産業用計算モデルの構築と高速解法の研究
兼岩 憲	●オントロジー指向による論理体系の研究 ●情報の意味を記述するために構造表現を導入した論理言語の研究
Nigel Collier	●ウェブページに対する意味のアノテーションの機械学習 ●情報抽出 ●オントロジー工学の研究 ●Bioテキストマイニング
佐藤 健	●投機的計算機構をもつマルチエージェントシステムの構築 ●宣言的プログラミングにおけるソフトウェア発展
菅原 秀明	●生物情報資源の相互運用性実現と知識抽出
龍田 真	●古典論理に対応する型理論 ●置換簡約の強正規化可能性
照井 一成	●構成的論理、型理論、計算量理論に関する研究
速水 謙	●数値解析: GMRES (一般化残差最小化) 法の特異な線形系や最小二乗問題への応用 ●脳磁界逆問題 (MEG) で生じる連立代数方程式の数値解法
古山 宣洋	●発話、身振り、呼吸の個人内・個人間での協調を生体力学的に制約する情報に関する研究
Peter Van Loock	●量子情報、量子光学 ●量子ネットワーク、量子ソリトン ●線形光学量子情報処理
松本 啓史	●量子情報および量子計算
山本 喜久	●光子を用いた量子情報処理、通信の研究 ●固体NMR量子コンピュータの研究

(以上五十音順)

情報基盤研究系

浅野 正一郎	●全光ネットワークアーキテクチャの開発 ●光ルータの開発 ●自律的分散ネットワーク制御の研究
阿部 俊二	●通信品質制御・ネットワーク設計技術の研究 ●フォトニックネットワークアーキテクチャの研究 ●次世代情報通信ネットワークの研究
北本 朝展	●画像解析と画像合成に関する研究 ●大規模科学画像データベースのデータマイニングに関する研究 ●気象学やバイオインフォマティクスへの画像データマイニングの応用
曾根原 登	●デジタル・コンテンツのネットワーク流通 (Digital Commerce) の研究 ●著作権、特許など知的財産情報の生産・流通管理・保護技術の研究
根本 香絵	●量子情報・計算 ●光を中心とした量子情報処理 ●量子操作と量子度量学
長谷川 亨	●高速ネットワークの高機能化・高信頼化に関する研究 ●ネットワーク計測と安全性向上への応用に関する研究
日高 宗一郎	●非数値計算向け並列処理環境に関する研究 ●拡張型分散OSに関する研究 ●XML文書への問合せにおける通信を考慮した最適化に関する研究
藤野 貴之	●ポリシーに基づくネットワーク制御方式に関する研究 ●フォトニックネットワークアーキテクチャの研究
松方 純	●インターネットの高速通信を実現するpeerモデルの一般解析と運用
松本 尚	●次世代オペレーティングシステムSSS-PCの耐故障性機能拡張に関する研究 ●高速ネットワークを効率良く制御するための高性能組込マイクロプロセッサの研究
三浦 謙一	●グリッドコンピューティング ●スーパーコンピュータのアーキテクチャと性能評価 ●大規模シミュレーション向き並列数値アルゴリズム、モンテカルロ法、非線形力学
山田 茂樹	●ユビキタス／コンテキスト・ウェア・コンピューティング・ネットワークの研究 ●プライバシー保護技術の研究
米田 進	●IP、MPLS、Ether網におけるトラフィック制御並びに輻輳制御の研究
米田 友洋	●非同同期回路の高位合成に関する研究 ●リアルタイムソフトウェアの形式的検証とその高速化に関する研究
渡邊 曜大	●暗号系の安全性概念についての研究 ●量子鍵配送方式の安全性についての研究 ●確率推論アルゴリズムの特性についての研究

(以上五十音順)

各教員の研究テーマ一覧

ソフトウェア研究系	
相原 健郎	●芸術表現活動のマルチメディアアーカイブに関する研究 ●美術・芸術に関する生涯学習者を支援する方策に関する研究
安達 淳	●不均質コンテンツ処理に関する研究 ●高性能情報検索の理論と実装に関する研究 ●Webコンテンツとリンク解析に関する研究
Frederic Andres	●多言語語彙データベースに関する研究 ●デジタルシルクロード及び画像学習オントロジーに関する研究 ●ジオメディアに関する研究
加藤 和彦	●オープンネットワークのための安全なソフトウェア流通実行システム ●自律連合型基盤分散システム
加藤 弘之	●カジュアルなデータベース問合せの最適化手法に関する研究 ●XMLデータベースの問合せ最適化のための基礎的枠組みに関する研究
神門 典子	●情報検索システムの評価 ●情報メディアの構造・ジャンルの分析と情報アクセス技術への応用 ●言語横断検索 ●価値付与型情報アクセスシステムの研究
計 宇生	●マルチサービスネットワークにおける品質保証の研究 ●トラヒックの特性解析と制御手法の研究 ●分散処理システムにおける資源管理方式の研究
佐藤 一郎	●ユビキタス・モバイルコンピューティング向けミドルウェアの研究 ●分散オブジェクト・モバイルエージェントの研究
高野 明彦	●並列連想計算方式の研究 ●連想に基づく情報空間との対話技術の研究 ●ソフトウェアの科学的構築法の研究
千葉 滋	●アспект指向ソフトウェア開発 ●Web サービス ●オペレーティングシステム
中島 震	●ソフトウェアの形式仕様と検証の研究 (Webサービスならびに組み込みシステムへの応用)
松岡 聡	●グリッドにおける自律的なミドルウェアの構成法に関する研究
丸山 勝巳	●コンポーネント化による拡張型分散OSの研究 ●能動オブジェクトによる広域連携システムの研究 ●通信ソフトウェアの研究
孟 洋	●事例型映像索引付け手法に関する研究 ●映像の知的構造化に関する研究
(以上五十音順)	
情報メディア研究系	
片山 紀生	●マルチメディア情報検索に関する研究 ●大規模映像アーカイブシステムに関する研究
金沢 誠	●証明論にもとづく文法フォーマリズムの形式的性質の研究 ●自然言語の論理的意味論の研究
神内 俊郎	●デジタルシルクロードの研究 ●卓越技術データベースの研究 ●デジタルアーカイブのための人材育成
上岡 英史	●ユビキタスコンピューティング・ネットワークの研究 ●コンテキストウェア情報通信ネットワークの研究
佐藤 真一	●放送映像アーカイブを用いた映像解析・検索・情報発見に関する研究 ●画像検索に関する研究
中村 裕一	●映像メディアの自動撮影・編集によるコンテンツ取得 ●画像・音声・言語による映像メディアの統合的処理 ●画像認識・理解に関する研究
橋爪 宏達	●ヒューマンインターフェース及び強化現実感 ●共調作業支援システム
Helmut Prendinger	●擬人化キャラクタ ●マルチメディア／マルチモダールプレゼンテーションシステム ●生理的相互システム
山本 毅雄	●情報システムのヒューマン・インターフェース ●学術・文化資料の長期デジタル・アーカイビング
(以上五十音順)	
知能システム研究系	
市瀬 龍太郎	●関係知識の学習に関する研究 ●知識共生に関する研究 ●医療情報を用いたデータマイニングに関する研究
上野 晴樹	●人との共存を目指した共生ロボットの研究 ●高等教育向き遠隔教育環境WebLSの研究開発 ●モバイル端末用の連想と学習機能を持つ賢い検索システムの研究
佐藤 寛子	●コンピュータによる化学反応予測に関する研究 ●コンピュータによるNMR化学シフト予測に関する研究
白井 良明	●視覚情報による人と動作の認識 ●マルチモーダル・インタラクション
杉本 晃宏	●人間の意図・行動の理解に基づく柔軟なヒューマン・マシン・インタラクション ●装着型視覚センサを用いた把持物体認識 ●量子化誤差を考慮したコンピュータビジョン
本位田 真一	●エージェント指向ソフトウェア工学 ●エージェントアーキテクチャ ●先進的エージェントアプリケーション
松井 知子	●音声・話者認識 ●マルチメディアデータの判別予測
村田 剛志	●WebマイニングとWebコミュニティ発見 ●平面幾何における発見システム ●図による推論システム
山田 誠二	●計算知能 ●人間とエージェントの相互適応 ●WWWにおける知的情報収集
(以上五十音順)	

人間・社会情報研究系	
植木 浩一郎	●次世代ヒューマンインターフェイスの開発
江口 浩二	●適応型情報アクセス手法に関する研究 ●Web情報アクセスシステムの評価手法とWebテストコレクションの構築に関する研究 ●Web情報の組織化に関する研究
大山 敬三	●多様なデジタルコンテンツのための統合プラットフォームの研究 ●Web検索システムの研究 ●全文検索技術の研究
岡田 仁志	●電子商取引の制度的プラットフォーム構築に関する研究 ●モバイルコマースに関する国際比較研究 ●電子地域通貨システムにおける遠隔地間での貨幣流通に関する研究 ●大学ネットワーク管理者のための法情報ブログ構築に関する研究
影浦 峽	●専門語彙のダイナミクスに関する研究 ●多言語対訳専門用語抽出に関する研究 ●メディア構造と情報管理の関係に関する研究
後藤田 洋伸	●実写映像に基づく三次元形状のモデル化とシミュレーション ●三次元モデルを対象とした類似検索システム
小山 照夫	●テキストコーパスからの用語抽出 ●用語の体系化 ●複合語の構造解析 ●知識表現
辻 慶太	●専門分野における新語の寿命に関する計量的研究
東倉 洋一	●情報科学技術と社会制度の係わりに関する研究 ●科学技術の社会貢献に関する研究 ●人間情報処理の学際的研究
西澤 正己	●情報科学研究の日米比較 ●情報科学関連研究のネットワーク構造とその動向把握に関する調査研究 ●日本の大学における研究活動のビブリオメトリック分析
宮澤 彰	●総合目録データベースの構築、利用に関する研究 ●漢籍総合目録とNACSIS-CAT総合目録のリンクに関する研究 ●データベース表現の基礎としての文字セットに関する研究 ●D -- データ処理用システムの構築
(以上五十音順)	

学術研究情報研究系	
小原 雅博	●グローバル化時代の情報と国際社会、国家、組織、個人との関係 ●アジアに開かれた日本と情報の役割
柴山 盛生	●研究動向と研究評価に関する計量的研究 ●研究環境の動態に関する統計的研究 ●研究活動における創造性の創出に関する研究
孫 媛	●ビブリオメトリックスの手法による研究評価と創造性研究 ●情報学研究・ゲノム研究の実態分析 ●モデルのperson-fitに関する研究
根岸 正光	●情報通信技術の進展下における、データベース、電子図書館、電子ジャーナル等の技術とサービスの動向に関する研究 ●研究水準の測定および研究動向の把握に関するビブリオメトリックス的研究
藤山 秋佐夫	●比較ゲノムインフォマティクスの手法によるゲノム機能解析研究
矢野 正晴	●創造的研究の特性と識別に関する研究 ●特許から見た産学連携に関する研究
(以上五十音順)	

実証研究センター	
Henri Angelino	●研究開発システム、イノベーション政策及び産学連携に関する国際比較
井上 雅史	●複数情報源からの学習 ●クロスメディア情報検索 ●情報利用行動
浦本 直彦	●ライフサイエンス向けテキストマイニング基盤の研究 ●XMLとメタデータに関する研究
漆谷 重雄	●次世代ネットワークアーキテクチャ・プロトコルの研究 ●次世代システムアーキテクチャの研究
児玉 和也	●実時間での品質調整に適した多次元画像情報の構造化とその分散共有通信方式の研究
高須 淳宏	●近似マッチングモデルの研究 ●時系列文書解析の研究
武田 英明	●知識共有システム ●コミュニティ支援 ●設計学
土屋 俊	●XMLを利用した構造化文書のマークアップおよび利用手法の研究 ●科学技術・学術情報の蓄積・保存のための基本的技術の開発および制度面の検討 ●音声対話に関する経験的分析と、それにもとづく音声対話システムの要素技術の開発
藤岡 淳	●公開鍵暗号に関する研究 ●デジタル署名に関する研究 ●暗号プロトコルに関する研究
細部 博史	●ユーザインタフェースを対象とした制約プログラミング ●階層的/力学的制約システムの理論と解消法
安田 靖彦	●適合フィードバックを用いた 画像類似検索システム ●動画像符号化の高効率化 ●コンテンツ配送ネットワーク ●アドホック無線ネットワーク ●触覚フィードバックを含む仮想空間共有システム
薦崎 弘宣	●コンポーネント指向ソフトウェア開発 ●パターン指向ソフトウェア開発 ●ソフトウェアメトリクス
(以上五十音順)	

情報学資源研究センター	
相澤 彰子	●テキストのクラスタ指向インデクシングとテキストマイニングに関する研究 ●情報検索へのソフトコンピューティングの適用に関する研究 ●グラフの手法に基づく言語資源の自動構築に関する研究
古賀 崇	●政府情報アクセスに関する法・制度・政策的研究
渡辺 恵子	●e-Learningが既存の教育システムに与える影響に関する研究 ●教育行財政研究
(以上五十音順)	

リサーチグリッド連携研究センター	
宇佐見 仁英	●サイエンスグリッドにおける問題解決環境の研究

実証研究センター

学術情報基盤整備事業や社会に還元するための実証研究の推進

実証研究センターの目的と進めている研究プロジェクト

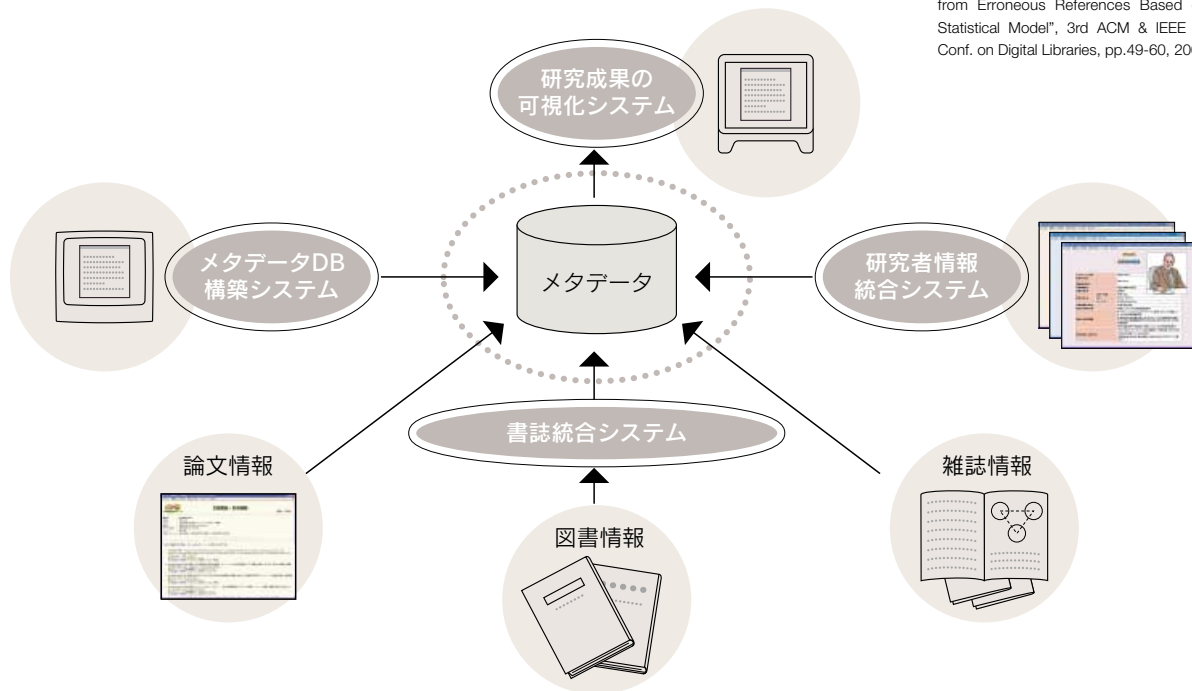
■ 実証研究センターの目的

実証研究センターは、NIIに所属する研究教育職員の研究の中で実用化段階に達した研究を支援するとともに、NIIが行っている事業の中で生じた問題を解決するためのニーズ指向の研究プロジェクトを推進しています。これによって、とくに乖離しがちな社会からのニーズと基礎研究とのギャップを埋めてゆくことを目指しています。

■ デジタルコンテンツ統合プラットフォームプロジェクト

論文、図書、研究者に関するデータベースやWebデータなどの、それぞれ独立に作成された情報リソースのうち、互に対応するものを同定してリンクしたり、類似の情報を統合したりすることによって情報の構造化を行っています。これを実現するために、クラスタリングや機械学習などのさまざまな基礎研究の成果を活用しています。これによって情報リソースへの効率的アクセスや、情報構造からの新しい知識の発見などが容易になります。

参考文献: A.Takasu, "Bibliographic Attribute Extraction from Erroneous References Based on a Statistical Model", 3rd ACM & IEEE Joint Conf. on Digital Libraries, pp.49-60, 2003.



実証研究センターのプロジェクト研究

■ 論文情報の可視化システム

多くの研究者は、論文を探し出すときに、論文間の引用関係や、タイトルの類似度などを手がかりにしています。こうした情報を一目で分かるように可視化し、論文を見つけやすくする方法を研究しています。

■ 文献情報の近似マッチングと統合システム

学術文献の参照関係は、学術研究の流れを知る上で非常に重要な役割を果たします。本研究では、NIIが所蔵する紙ベースの学術文献に現れる引用関係を自動的に抽出する研究を進めています。

■ 研究者ポータル・プロジェクト

学会における発表情報や参加・聴講情報から、研究者間のネットワークやコミュニティを発見して提示することで、研究者のコミュニケーション支援を行う研究を行っています。

■ 研究者個人データ編集・出力システム

学術情報流通では多様性を許容しつつ統一的な情報を構築することが重要です。本研究では研究者情報に注目し、XMLを用いて研究者が自分自身の情報を効率的に作成するためのツールの研究開発をしています。

情報学資源研究センター

情報学研究のためのデジタルコンテンツの整備

センターのめざすものとテストコレクション・プロジェクト

情報学資源研究センターは、研究所の附属施設の一つで、大規模な情報資源を使う共同研究の推進を目的としています。

センターで実施している大規模な研究プロジェクトの典型例としてNTCIR（NII Test Collection for IR Systems）があります。NTCIRワークショップは、国の内外から、また学界のみならず産業界からも数多くの参加者を募って行う共同研究で、最先端の情報アクセス技術を様々な観点から研究し評価するための、一連の活動です。ここでは、参加研究者が、テ

ストコレクションと呼ばれる大規模なデジタルコンテンツを使うことにより、各種技術の性能評価が共通の基盤で行われることをねらっています。情報検索、文書要約、情報抽出、質問応答などのインターネットで必須の基盤技術の向上に寄与しています。

NIIはこのワークショップを組織し、テストコレクションを作成し、研究者に提供しています。このような形態の共同研究を様々なコンテンツで展開していこうとしています。

NTCIRで行っていること

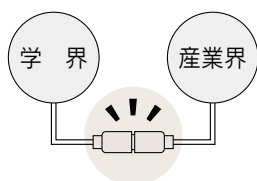
大規模なデジタルコンテンツ（テストコレクション）を用意して様々な情報アクセス技術の評価とテストに活用

現在までに作ってきた
テストコレクション

- 学術文献
- 新聞記事
- 特 許
- WWWページなど

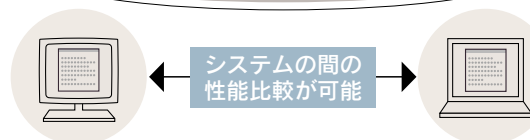
学界と産業界との間の開かれた国際共同研究の場を提供

課 題



- 言語横断検索
- 特許検索
- 質問応答
- 文書要約
- WWW検索

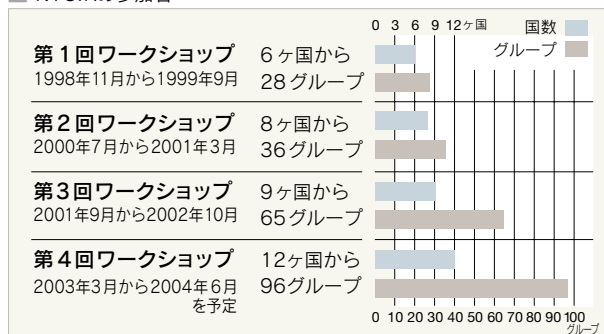
NTCIRでできること



迅速な技術発展を促す

最新の研究についての技術移転を促す

■ NTCIRの参加者



情報学資源研究センターのその他のプロジェクト紹介

■ 芸術表現活動のマルチメディアアーカイブとその構築支援・提供システム

大学と共同して、美術工芸品に関する各種情報のデジタルアーカイブの構築に関する研究を行っています。アーカイブは、高品質の作品画像やビデオを蓄積する他、作品解説や制作者へのインタビューなども取り込まれています。

■ 映像メディア高度解析プロジェクト

電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会の活動と共同して行ってきたもので、映像処理研究のための評価用映像を作成し、配布しています。メタデータ付き

の映像データを使い、この分野の研究を振興することが目的です。

■ 自然言語研究のための言語コーパスの作成と評価

語構成単位を適切にとらえた日本語の基本コーパスを作成し、複合語処理、語構成論、語彙論などの研究に使用しようというものです。すでに1999年以来大学や企業との協力のもとに予備データを用いて専門用語の自動抽出のテストを行ってきました。その成果は学術雑誌の特集号で出版されています。（“Terminology”，Vol.6，No.2）

大学院教育

国立情報学研究所は、本研究所の特色である情報学の包括的研究体制、学術情報サービス事業を研究開発と一体のものとして行う実践的環境を活用して、広い視野と高度な専門性及び指導力を持った研究者、真に問題解決能力を持った研究者の育成を目指し、主に、

- (1) 総合研究大学院大学への参画
- (2) 特別共同利用研究員の受入れ
- (3) 連携大学院

の3つの形態で大学院教育を実施しています。

総合研究大学院大学 情報学専攻

■ 大学院設置

国立情報学研究所は、平成14年4月、総合研究大学院大学(総研大)に参加し、「情報学専攻」(博士後期課程)を開設しました。

総研大は、6研究科22専攻を有する大学院のみの大学で、そのうち5研究科20専攻については、大学共同利用機関等を専攻の基盤組織としています。

■ 内容・構成

情報学専攻では、21世紀を担う国際レベルの若手IT研究者・技術者の養成を目指しており、「博士(情報学)」(内容に応じ、「博士(学術)」)の学位を取得できます。

本専攻の教育・研究指導分野は、(1)情報基盤科学、(2)ソフトウェア科学、(3)知能システム科学、(4)情報環境科学の4分野の専門科目及び共通専門基礎科目から構成されており、計42科目の授業科目が用意されています。

■ 国際大学院コース

アジアを中心とした外国からの優秀な留学生を募集し、学術研究の新しい流れに対応でき、国際的で独創性豊かな研究者養成を目的とする国際大学院コースを、平成14年10月から本専攻内に開設しました。このコースでは、講義はすべて英語で行われています。



情報学専攻の講義風景



大学院生室

■ 情報学専攻所属在学生数(平成16年4月現在)				()は外国人留学生で内数
入学年度		一般コース	国際大学院コース	計
平成14年度	4月	14 (1)	—	20 (6)
	10月	1 (0)	5 (5)	
平成15年度	4月	15 (6)	—	22 (11)
	10月	3 (1)	4 (4)	
平成16年度	4月	8 (4)	—	8 (4)
	計	41 (12)	9 (9)	50 (21)

■ 情報学専攻所属学生の出身校一覧

日本	北海道大学	茨城大学	筑波大学
	図書館情報大学	東京大学	電気通信大学
	横浜国立大学	静岡大学	名古屋大学
	京都大学	神戸大学	広島大学
	奈良先端科学技術大学院大学		慶應義塾大学
	芝浦工業大学	成城大学	東京電機大学
	東京理科大学	日本大学	早稲田大学
	同志社大学		
中国	East China Normal University		
	Harbin Institute of Technology		
	Tsinghua University		
	The University of Electronic Science and Technology		
タイ	University of Science and Technology of China		
韓国	Kasetsart University		

特別共同利用研究員

国立情報学研究所は、大学共同利用機関としての研究活動の充実と教育の発展に資するため、他大学の大学院生を特別共同利用研究員(受託大学院生)として受け入れています。

これらの特別共同利用研究員は、本研究所が持つ豊富な学術情報データベースや情報通信インフラを利用しての教育研究指導を受けるとともに研究にも従事し、その研究課題に応じた本研究所の教員から指導を受けています。

連携大学院

国立情報学研究所は、東京大学、東京工業大学の大学院と連携し授業を行うとともに、本研究所に大学院生を受入れ研究指導を行うなど、大学院教育に積極的に協力しています。

上記特別共同利用研究員や連携大学院により受け入れている他大学大学院生数は表のとおりです。

イラン	Tehran University	
ベトナム	University of Natural Science	
バングラデシュ	Dhaka University	
フランス	Ecole Supérieure Angevine d'Informatique et de Productique Institut des Sciences et Techniques de l'Ingenieur d'Angers Universite de Savoie	
ドイツ	University of Leipzig	University of Stuttgart
英国	University of Wales	
米国	Yale University	
その他	Asian Institute of Technology	

■ 特別共同利用研究員の所属大学(平成16年4月現在)

大 学	大 学 院 研 究 科
東京大学	学際情報学府
東京工業大学	総合理工学研究科
電気通信大学	情報システム学研究科
神戸大学	自然科学研究科
早稲田大学	理工学研究科

■ 連携大学院

大 学	大 学 院 研 究 科	備 考
東京大学	情報理工学系研究科	平成13年度～
東京工業大学	情報理工学研究科	平成14年度～
	総合理工学研究科	平成15年度～

■ 研究指導している他大学の学生数(平成16年4月現在)

修士課程	博士後期課程	計
23名	14名	37名

問合せ先／研究協力課 大学院係

TEL 03-4212-2110 FAX 03-4212-2120 E-mail : daigakuin@nii.ac.jp

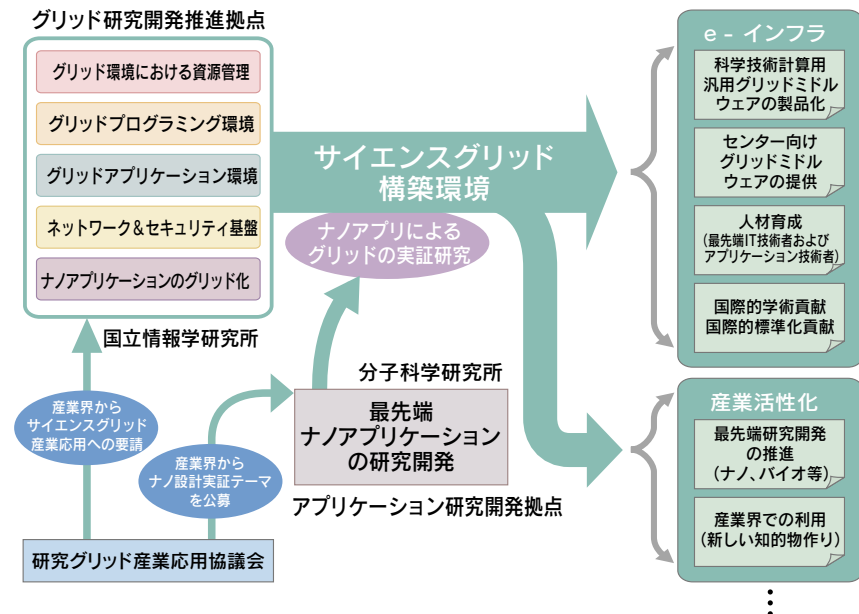
ナショナル・リサーチグリッドイニシアティブ(NAREGI)

<http://www.naregi.org/>

NAREGIプロジェクトの目指すもの

超高速コンピュータ網形成プロジェクト(NAREGI:National Research Grid Initiative)は、広域分散型の研究用大規模計算環境を実現する実運用に耐えられる品質のグリッド基盤ソフトウェアを開発することを目的として、文部科学省の日本の先端科学技術を支えるリーディングプロジェクトの一環として平成15年度からスタートしました。国立情報学研究所では、大規模広域分散計算環境での大規模シミュレーションなどのために必要とされるe-インフラとしてのグリッド基盤ソフト

ウェア、セキュアでグリッドに適したネットワーク環境、ナノアプリケーションのグリッド化等の研究開発を実施しています。さらに、国立情報学研究所で開発したグリッド基盤ソフトウェアを実証するために、分子科学研究所で、ナノ分野における最先端の単一システムでは不可能な大規模シミュレーションソフトウェアの研究開発を実施しており、そのために産・学・官の協力機関との共同研究体制をとっています。



グリッド研究開発推進拠点における研究テーマの紹介

グリッド環境における資源管理

テーマ ● スーパースケジューラ ● グリッドVM ● 分散情報サービス

研究内容 CPU数、緊急度、費用等ユーザからの要求を取り入れて計算資源の確保を行うブローカ機能を持つスケジューリング全体を司るスーパースケジューラ、下位の個々の計算資源において資源制御・資源保護並びにローカルスケジューリングを行うグリッドVM、さらにはグリッドにおける計算資源・ネットワーク・ソフトウェア並びにユーザ等のアカウントリングを行い、それを統合的に管理する分散情報サービス等の研究・開発を行います。

グリッドプログラミング環境

テーマ ● グリッドRPCシステム ● グリッドMPIシステム

研究内容 グリッドRPCシステムでは、遠隔計算機上でライブラリ関数を呼び出すモデルに基づき、数10から数100CPU規模の複数のクラスタを利用するグリッドアプリケーションの容易な開発と高い実行効率を可能とするシステムの研究と開発を行います。グリッドMPIシステムでは、グリッド上での通信遅延を考慮した高性能かつインターオペラブルな通信を実現するために、TCP/IPレベル及びMPIライブラリレベルでの通信ライブラリの研究・開発を行います。また、両プロジェクトともGGF(Global Grid Forum)において国際標準での規格化を推進します。

グリッドアプリケーション環境

テーマ ● グリッドワークフロー ● グリッドPSE ● グリッド可視化システム

研究内容 グリッド環境が広くエンドユーザに受け入れられるためには、グリッドのアプリケーション環境がユーザにとって使い易いものでなければなりません。そのために、操作性の良いGUIとともにスクリプト言語等の外部から容易に呼び出して使えるジョブ制御のためのワークフローツール、研究者が開発したアプリケーションをグリッド環境上への配置(Deployment)・登録、分散したアプリケーション、計算モジュール、データなどの実行・連携・協調を容易に行うことができるアプリケーション環境としてのグリッドPSE(Problem Solving Environment)及び計算結果をグリッド上で視覚化するためのグリッド可視化ソフトウェアツールの研究開発を行います。

ネットワーク&セキュリティ基盤

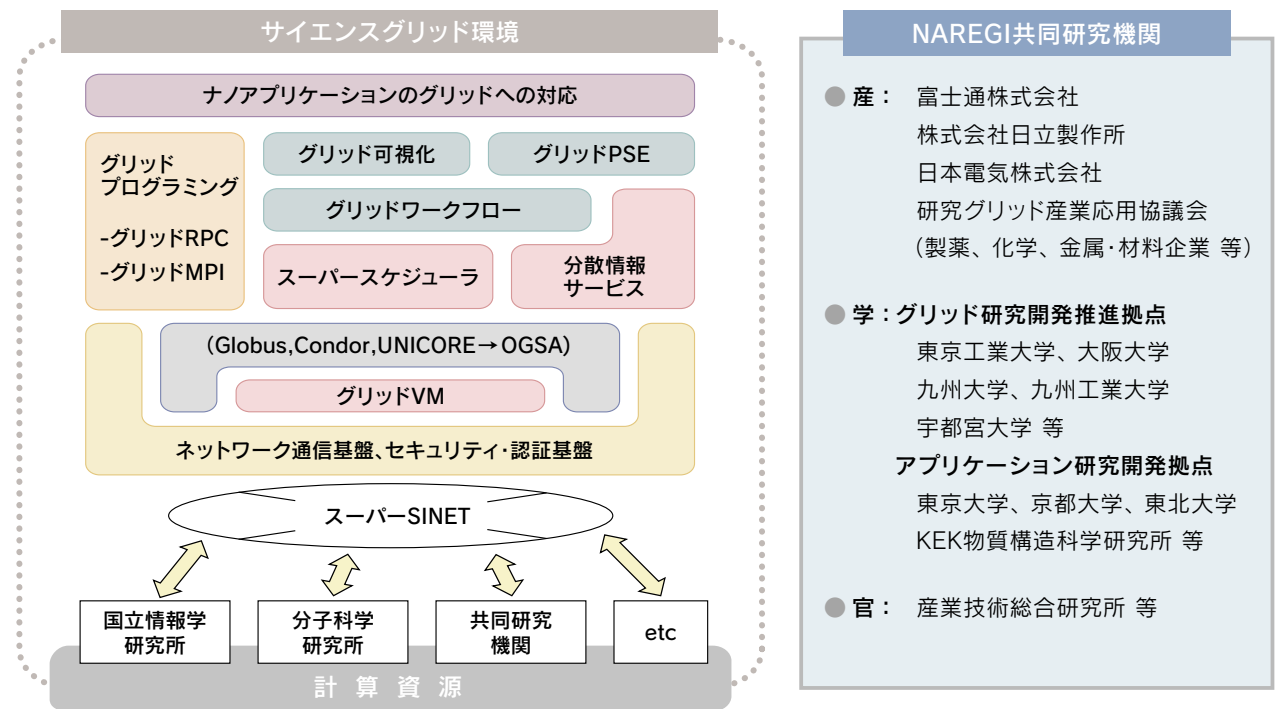
テーマ ● ネットワーク通信基盤の研究開発 ● セキュリティ・認証基盤の研究開発

研究内容 NAREGIに必要なネットワークインフラストラクチャを提供するために、ネットワーク通信とセキュリティ・認証基盤の研究開発を行います。具体的には、グリッド計算のためのネットワーク機能基盤技術に関して、ネットワークトラフィックの計測に基づく最適経路・バックアップ用多重化経路の制御技術の研究開発、グリッド上でのファイル転送に最適化された通信プロトコルの研究開発、複数の組織をまたがる認証基盤の研究・開発を行います。

ナノアプリケーションのグリッドへの対応

テーマ ● ナノアプリの並列化・分散化等によるグリッド対応

研究内容 ナノサイエンス実証研究拠点が開発しているナノ分野アプリケーションのグリッド対応化を行うとともに、ナノ分野連成ミドルウェアの開発とグリッド環境における応用研究を行います。また、グリッドアプリケーション環境の研究開発と連携協力し、グリッド上におけるナノ分野アプリケーションの実行環境を整備します。



問合せ先/グリッド研究開発推進拠点(リサーチグリッド連携研究センター)

TEL 03-4212-2857 FAX 03-4212-2803 E-mail: office@grid.nii.ac.jp

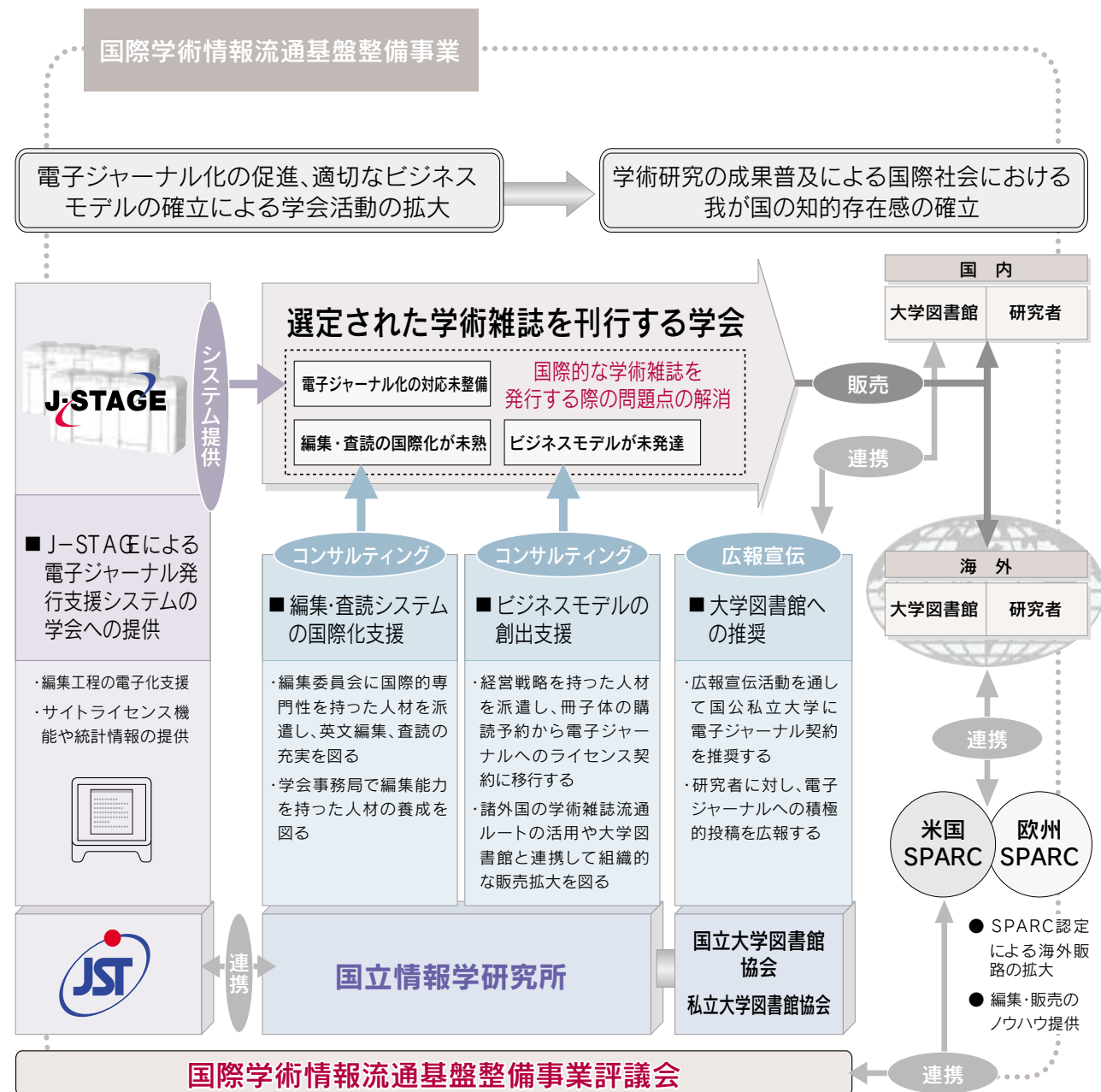
国際学術情報流通基盤整備事業

<http://www.nii.ac.jp/sparc/>

背景

学術研究の推進のためには、研究成果が学術論文によって迅速に流通し、研究者・学生が最新の研究成果を常に利用できることが重要です。また、これらの学術論文の刊行状況は、それぞれの国、それぞれの分野における研究活動を集団、個人について評価するための重要な指標です。

欧米においては、学術コミュニケーションの変革運動として、SPARC (Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition: 学術出版・学術資源連合) が、大学図書館を中心に活動し、高額商業学術雑誌に対抗する学術雑誌の支援や品質の保証を行うことにより、国際競争力のある雑誌の適正価格での流通を推進し、成功を収めています。



*SPARC: Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition

活動

本事業は、日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子化・国際化を強化することによって、学術情報流通の国際的基盤の改善に積極的に寄与するとともに、わが国の学術研究の成果の一層の普及を推進することを目的として、平成15年度から開始した事業です。

国立情報学研究所は、日本の学協会、大学図書館、科学技術振興機構 (JST)、SPARC (米国)、SPARC Europeとの連携協力の下、本事業を推進し、日本の学協会が刊行する学術雑誌が国際的に高く評価され、経済的に妥当な形態で電子的な学術雑誌の刊行を維持し続けることが可能になる体制を確立することを支援します。

平成15年度には、国際学術情報流通基盤整備事業への参画学会誌として16学会21タイトルの英文学術雑誌を選定し、支援活動を実施しました。

生物学系学協会3誌は、UniBio Pressという団体を立ち上げ、J-STAGE上で電子ジャーナルのパッケージを形成し、大学図書館とのサイトライセンス契約を実現するという成果を挙げています。

また、数学系学協会は、米国 Cornell大学の Project Euclid という数学系電子ジャーナルサイトの担当者を招き、東北大学で、大学図書館とともに全国の数学雑誌編集者を集めた説明会を開催しています。

物理系学協会は、電子ジャーナルのビジネスモデルを開拓するとともに、米国で開催された世界中の大学図書館コンソーシアムが一堂に会する国際会議 (ICOLC: International Coalition of Library Consortia) で、日本の学協会の電子ジャーナル化の現状と今後の展望を発表しました。

その他の学協会誌についても、バックナンバーの週及入力の推進や電子ジャーナル化方策の調査、最適なビジネスモデルの検討、電子ジャーナルによる新雑誌創刊の企画など、多岐にわたる取り組みが行われています。

平成15年度選定誌

タイトル	学会 (機関)
Monumenta Nipponica	上智大学モニュメント・ニボニカ
Kodai Mathematical Journal	東京工業大学理工学研究科数学専攻
Tohoku Mathematical Journal	東北数学雑誌編集委員会
Japanese Journal of Applied Physics (JJAP)	物理系学術誌刊行協会
Journal of the Physical Society of Japan (JPSJ)	
Analytical Sciences	社団法人日本分析化学会
Journal of Chemical Engineering of Japan	社団法人化学工学会
Polymer Journal	社団法人高分子学会
Journal of Bioscience and Bioengineering	社団法人日本生物工学会
Journal of Mammalian Ova Research	日本哺乳動物卵子学会
Mammal Study	日本哺乳類学会
Zoological Science	社団法人日本動物学会
JSME International Journal	社団法人日本機械学会
IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences	
IEICE Transactions on Communications	
IEICE Transactions on Electronics	社団法人電子情報通信学会
IEICE Transactions on Information and Systems	
IEICE Electronics Express	
Materials Transactions	社団法人日本金属学会
The Japanese Journal of Physiology	日本生理学会
Cancer Science	日本癌学会

[21タイトル16学会 (機関)]

問合せ先/コンテンツ課 学術コミュニケーション係

TEL 03-4212-2360 FAX 03-4212-2375 E-mail: sparc@nii.ac.jp

学術情報ネットワーク (スーパーSINET／SINET)

<http://www.sinet.ad.jp/>

学術情報ネットワーク (SINET) は、日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として構築、運用されている情報ネットワークです。教育・研究に携わる数多くの人々のコミュニティ形成を支援しつつ、多岐にわたる学術情報の促進を図るべく、全国にノード (ネットワーク接続拠点) を設置し、大学、研究機関等に対して先進的なネットワーク環境を提供しています。また、国際的な先端研究プロジェクトで必要とされる国際間の研究情報流通を円滑に進められるように、米国Abilene^{*1}や欧州GÉANT^{*2}をはじめとする、多くの海外研究ネットワークと相互接続しています。平成14年1月からは日本の先端的研究プロジェクトを支援するためにスーパーSINETの運用を開始しています。

スーパーSINET

スーパーSINETは、光クロスコネク (OXC) を中心に、光波長多重化装置 (WDM) や超高速ルーター等で構成された、世界最先端クラスの性能と速度を誇る研究用情報ネットワークです。この革新的な学術情報基盤は、従来のネットワーク環境では不可能なほどの膨大な量のデータを共有し、処理することが求められる先端的研究プロジェクトをサポートするために構築されました。超高速なネットワークに依存する研究を行っている高エネルギー科学、核融合科学、宇宙科学、天文学、遺伝子情報解析、ナノテクノロジー研究に加えて、何台ものスーパーコンピュータを連動させたGRIDコンピューティング研究等の研究プロジェクトに参加する大学等の学術研究機関に対し、最大10ギガビット/秒のネットワーク環境を提供しています。また、ITBL^{*3}やNAREGI^{*4}等の研究プロジェクトもスーパーSINETを使用して効率的な研究開発を進めています。スーパーSINETを利用した研究プロジェクトからは、これまでに数多くの優れた研究成果が出てきています。

今後は、スーパーSINETを利用して研究を進めている先端的研究コミュニティと、更に進んだ研究を行うために必要なネットワーク機能について検討を行い、より進化した先端の学術研究基盤に向けて機能の拡充を図っていく計画です。

^{*1} Abilene 次世代インターネットの開発プロジェクトである「Internet 2」が運用するテストベッドであり、全米約 190以上の大学研究機関等が参加
^{*2} GÉANT 欧州委員会 (EC) が政策的に構成する汎欧州研究ネットワークであり、30ヶ国以上で3000以上の研究・教育機関が参加
^{*3} ITBL IT-Based Laboratory: IT技術を活用し仮想的な共同研究環境を実現するプロジェクトであり、平成13年度から開始
^{*4} NAREGI National Research GRID Initiative: 超高速コンピュータ網形成を目指した産学官連携の研究プロジェクト

スーパーSINETノード

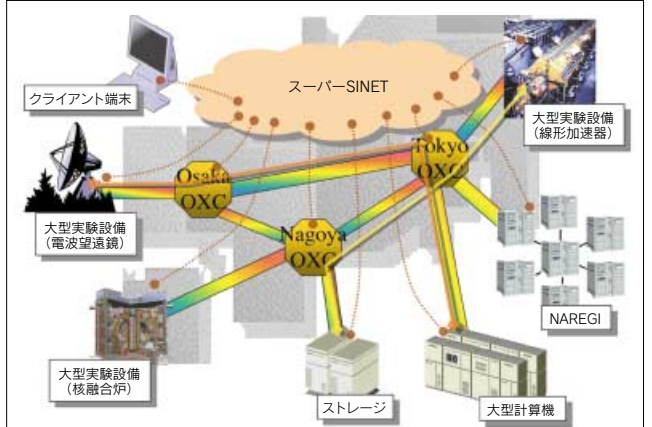
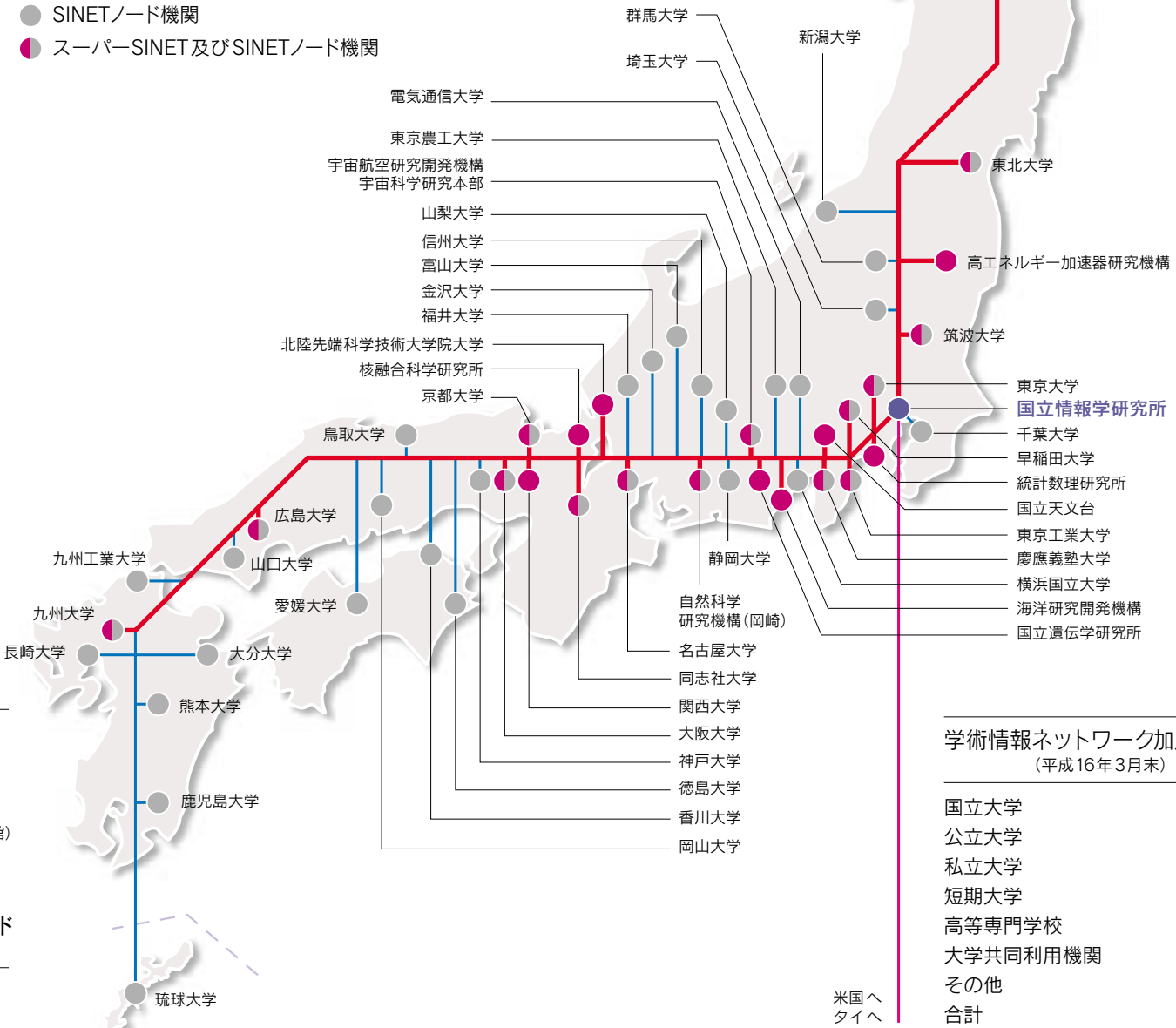
■ 北海道大学	■ 早稲田大学	■ 大阪大学
■ 東北大学	■ 慶應義塾大学	■ 広島大学
■ 東北大学 金属材料研究所	■ 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部	■ 九州大学
■ 東北大学 流体科学研究所	■ 北陸先端科学技術大学院大学	■ 国立情報学研究所 (一ツ橋)
■ 筑波大学	■ 国立遺伝学研究所	■ 国立情報学研究所 (千葉分館)
■ 高エネルギー加速器研究機構	■ 核融合科学研究所	
■ 東京大学	■ 自然科学研究機構 (岡崎)	
■ 東京大学 物性研究所	■ 名古屋大学	
■ 東京大学 医科学研究所	■ 京都大学	
■ 東京工業大学	■ 京都大学 化学研究所	
■ 統計数理研究所	■ 同志社大学	
■ 国立天文台		

平成16年度
新規スーパーSINETノード
(平成16年10月～)

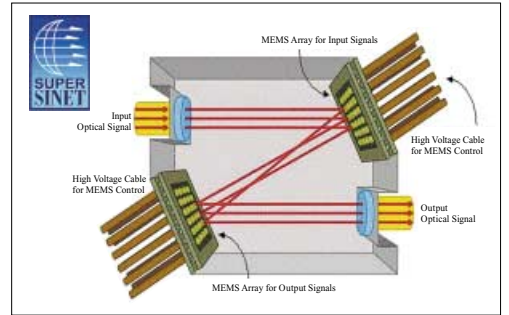
■ 海洋研究開発機構
■ 関西大学

平成15年度回線速度

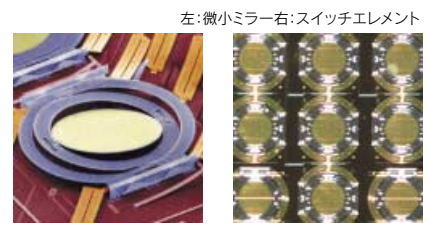
- スーパーSINET (10Gbps)
- 国際回線 (10Gbps: 米国向け / 2Mbps: タイ向け)
- SINET (40Mbps～1Gbps)
- 国立情報学研究所
- スーパーSINETノード機関
- SINETノード機関
- スーパーSINET及びSINETノード機関



スーパーSINETは光クロスコネクを使用することにより、先端的研究プロジェクトからの様々な要求に対して柔軟に対応可能なネットワークを目指しています。



光クロスコネク (OXC: Optical Cross Connect) は、光波長を制御することにより、ネットワーク構成の柔軟な変更を可能にする、光ネットワーク制御の中核的役割を担う装置です。



左: 微小ミラー 右: スイッチエレメント
光クロスコネクは、ナノテクノロジー開発の成果の1つである微小ミラー (MEMS: Micro Electronic Mirrors) を用いたもので、微小ミラーは、2つの支点の周りを可動します。また、6センチ四方のチップには256個のミラーがのせられています。

学術情報ネットワーク加入機関数 (平成16年3月末)

国立大学	(81)
公立大学	(48)
私立大学	(271)
短期大学	(87)
高等専門学校	(44)
大学共同利用機関	(15)
その他	(199)
合計	(745)

問合せ先
ネットワーク課 計画係
TEL 03-4212-2255 FAX 03-4212-2270
E-mail: net6@sinet.ad.jp

目録所在情報サービス

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/home.html>

目録所在情報サービスには、目録システムとILL(図書館間相互貸借)システムがあります。

NACSISとは、国立情報学研究所(NII)の前身である学術情報センター(NACSIS:National Center for Science Information Systems)のことです。サービスの名称として、現在でも使っています。

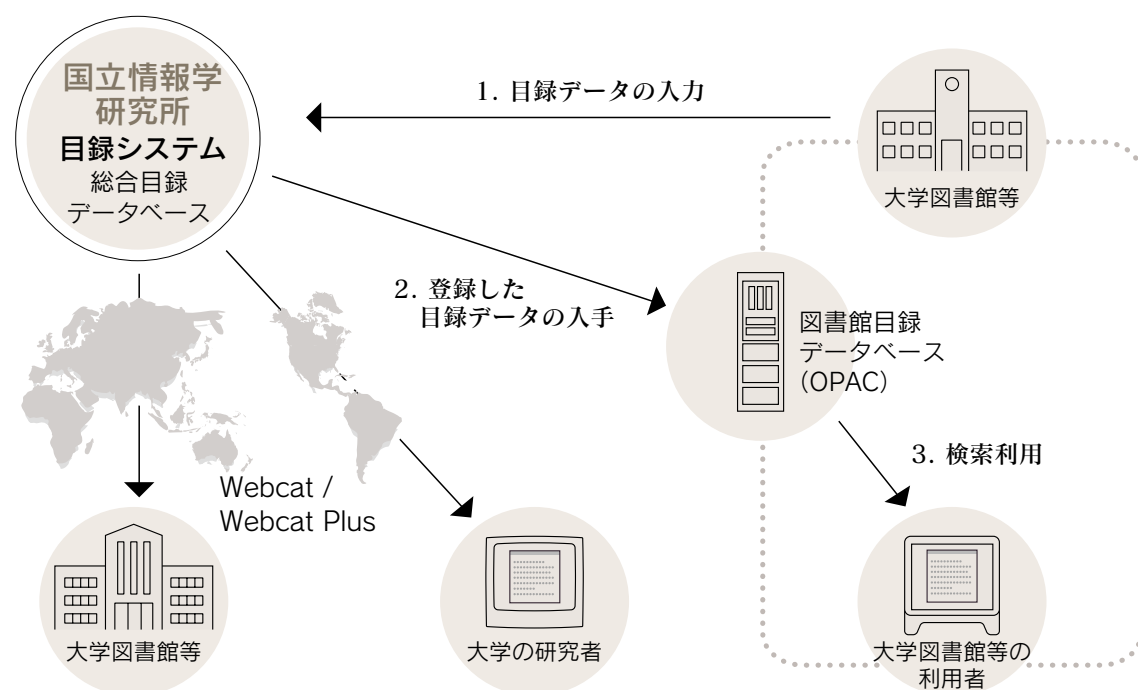
目録システム(NACSIS-CAT)

目録システム(NACSIS-CAT:CATaloging)は、研究者の研究活動を支援するため、全国の大学図書館等にどのような学術文献(図書・雑誌)が所蔵されているかが即座に分かる総合目録データベースを構築するシステムです。この目録システムでは、データベースを効率的に形成するため、標準的な目録データ(MARC)を参考にするとともに、全国の大学図書館等によるオンラインの共同分担入力が行われています。

平成15年度には、接続館数は1,020館を、所蔵登録件数は7,000万件を超えました。

このようにして構築された総合目録データベースは、WWW検索サービス(Webcat/Webcat Plus)で誰でも自由に利用できます。

また、国内の大学や研究機関が、インターネット上で発信している学術情報資源のメタデータ・データベースの共同構築事業も実施しています。



ILL(図書館間相互貸借)システム(NACSIS-ILL)

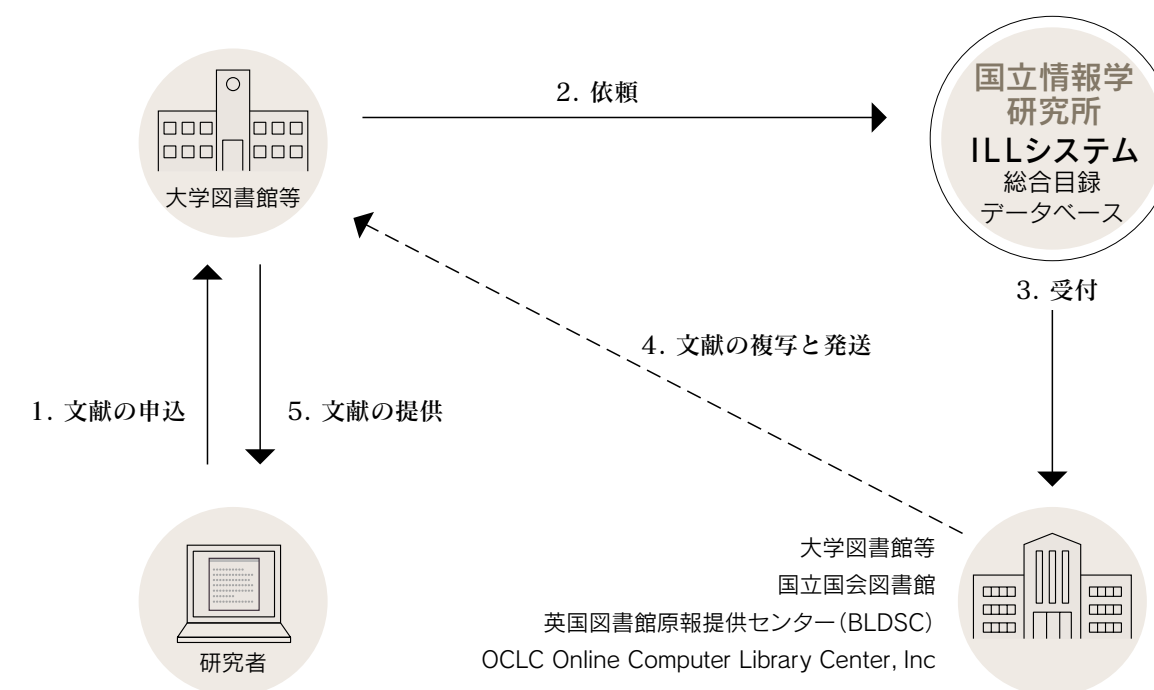
ILLシステム(NACSIS-ILL:Interlibrary Loan)は、大学等の研究者に学術文献を提供するため、図書館間で図書や雑誌論文を相互に利用し合うための連絡業務を支援するシステムです。

目録システムで構築される最新の総合目録データベースを活用することができ、業務の効率化と利用者への文献情報提供の迅速化を図っています。

このシステムでは国立国会図書館や英国図書館原報提供センター(BLDSC)へ文献提供の依頼もできます。また、米国OCLCなど海外のILLシステムと連携することにより、海外の大学図書館等との相互貸借サービスも可能です。

平成15年度は、約110万件の依頼がこのシステムを利用して処理されました。

今年度から、ILL文献複写等料金相殺サービスを開始しました。



Webcat

<http://webcat.nii.ac.jp/>

■ 利用状況(平成15年4月～平成16年3月末)
利用回数(検索回数) 18,353千回



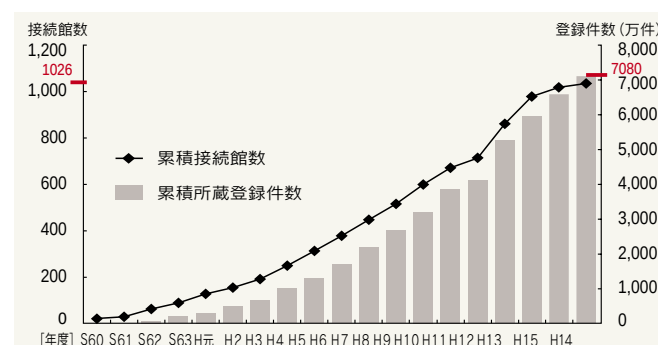
Webcat Plus

<http://webcatplus.nii.ac.jp/>
次世代Webcatです。

■ 利用状況(平成15年4月～平成16年3月末)
利用回数(検索回数) 4,031千回



■ 接続館数及び所蔵登録件数の推移(平成16年3月末)

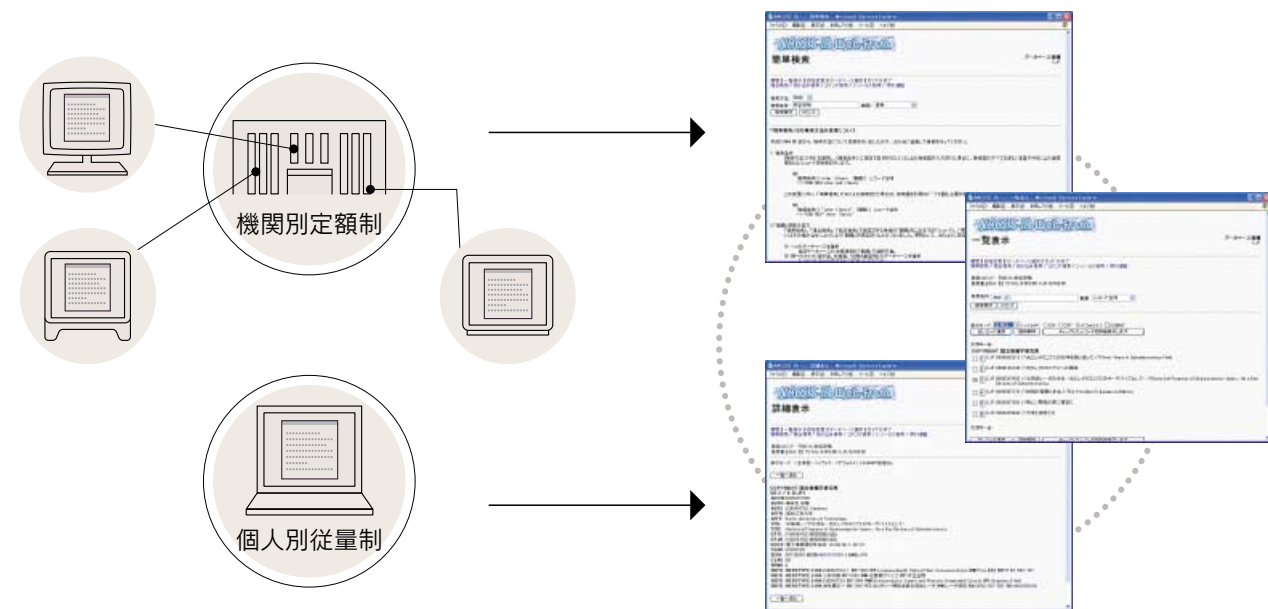


情報検索サービス (NACSIS-IR)

<http://www.nii.ac.jp/ir/>

情報検索サービス (NACSIS-IR: Information Retrieval) は、学術研究情報を迅速かつ的確に研究者に提供することを目的として、人文・社会・自然科学の分野にわたって約1億件の学術情報を蓄積し、インターネットを通じて提供しています。

平成14年4月から開始した『機関別定額制』のサービスにより、機関が一定額の支払いをすることで機関に所属する方の全てが情報検索サービスを簡単に利用することができます。



■ 収録状況 (平成16年3月末)

提供データベース数	収録件数
42種	127,601千件

■ 利用状況 (平成15年4月～平成16年3月末)

個人登録者数	登録機関数	利用回数	接続時間	表示件数
10,393人	474機関	256千回	484千分	3,264千件

情報検索サービスの利用について

- 利用者の範囲
 - 個人利用者：大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の職員及び大学院学生等
 - 国公立試験研究機関並びに研究又は研究支援を目的とする独立行政法人及び特殊法人等の職員
 - 学術研究法人及び大学に相当する教育施設等の職員、学会の正会員
 - 機関利用者：大学、短期大学、高等専門学校及び大学共同利用機関等
 - 国公立試験研究機関並びに研究又は研究支援を目的とする独立行政法人及び特殊法人等
 - 学術研究法人及び大学に相当する教育施設等、学会
- 利用料金
 - 個人利用者：データベースによって接続料1分間50円、ヒット料1件当たり13円または、接続料1回接続ごとに30円のいずれか
 - 機関利用者：機関に属する常勤の教員・研究者の人数に応じた料金(年額)
- 利用時間
 - 24時間サービス(ただし、毎週月曜日8:00～9:00、3月31日及びシステム保守のため必要な日時を除く)

情報検索サービス提供データベース一覧

■ 作成データベース（本研究所が企画・作成したもの）

経済学文献索引データベース

科学研究費補助金研究成果概要データベース

科学研究費補助金採択課題データベース

学位論文索引データベース

学術雑誌目次速報データベース

引用文献索引データベース

データベースディレクトリ

民間助成研究成果概要データベース

目録所在情報データベース（図書、雑誌）

■ 導入データベース（データベース作成機関から導入したもの）

Arts & Humanities Citation Index

Social Sciences Citation Index

Science Citation Index Expanded

国立国会図書館科学技術欧文会議録データベース

国立国会図書館洋図書目録データベース

雑誌記事索引データベース

民間助成決定課題データベース

JPMARC

LCMARC (Books, Serials)

■ 受入データベース（他の機関・研究者等が作成したものを受け入れたもの）

大型コレクションディレクトリ

文化財科学文献データベース

社会学文献情報データベース

教科教育実践学関係資料（国語科）データベース

維新史料綱要データベース

古文書目録データベース

北海道大学北方資料総合目録データベース

中央アジア研究文献索引データベース

中東・イスラーム研究文献索引データベース

スラブ地域研究文献データベース

日本独文学会文献情報データベース

ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース

日本アメリカ研究文献情報データベース

東南アジア関係文献目録データベース

化学センサーデータベース

化学と教育誌データベース

RAMBIOS

霊長類学文献索引データベース

日本建築学会文献索引データベース

日本の医学会会議録データベース

地理学文献データベース

家政学文献索引データベース

問合せ先／コンテンツ課 学術情報形成第二係
TEL 03-4212-2350 FAX 03-4212-2370 E-mail : irhelp@nii.ac.jp

オンライン学術用語集

<http://scitem.nii.ac.jp/>

学術研究の成果を広く流通させ、正しく評価・検証が行われるためには、専門的用語(学術用語)の意味の定義や用法等について、研究者間で共通の認識が必要です。このため、各学問分野で学術用語の標準化が進められており、その成果は『学術用語集』として刊行されています。「オンライン学術用語集」(Sciterm)では、『学術用語集』に収録されている学術用語を著作権者である文部科学省と各学協会の許諾を得て、インターネットを通じて無料で検索できるようにしています。主な収録項目は、用語(和・ローマ字読み・カナ読み・洋)、品詞、参照先用語です。

■ 収録状況 (平成16年3月末)

収録編数	収録用語数
22編	128千語

■ 利用状況 (平成15年4月～平成16年3月末)

年間トップページアクセス回数
386千回



問合せ先
コンテンツ課 学術ポータル係
TEL 03-4212-2330 FAX 03-4212-2375
E-mail : sciterm@nii.ac.jp

学協会情報発信サービス

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/>

学協会情報発信サービスは、本研究所が提供するWWWサーバに日本国内の学協会等の学術研究情報を収集し、インターネットを通じて広く情報発信することにより、我が国の学術研究を支える重要な研究者コミュニティである学協会の活動を支援することを目的としたサービスです。

本サービスでは、学協会のホームページへのリンク集である Academic Society Home Village から、学協会名称の五十音、アルファベット順及び日本学術会議による分類専門分野順毎の選択や、学会名やキーワードを入力する検索ツールにより、収録されている学協会情報の所在について、効率的に探し出すことができ、学問・教育・研究及び文化のポータルサイトとして各メディア等で紹介される等、有益な情報源として評価されています。

■ 収録状況 (平成16年3月末)

参加学協会数	内訳
861学会	ホームページ構築サービス リンクサービス
707学会	154学会

■ 利用状況

年間トップページアクセス回数
410千回

問合せ先
コンテンツ課 学術情報形成第一係
TEL 03-4212-2340 FAX 03-4212-2370
E-mail : wwwsoc@nii.ac.jp



電子図書館サービス (NACSIS-ELS)

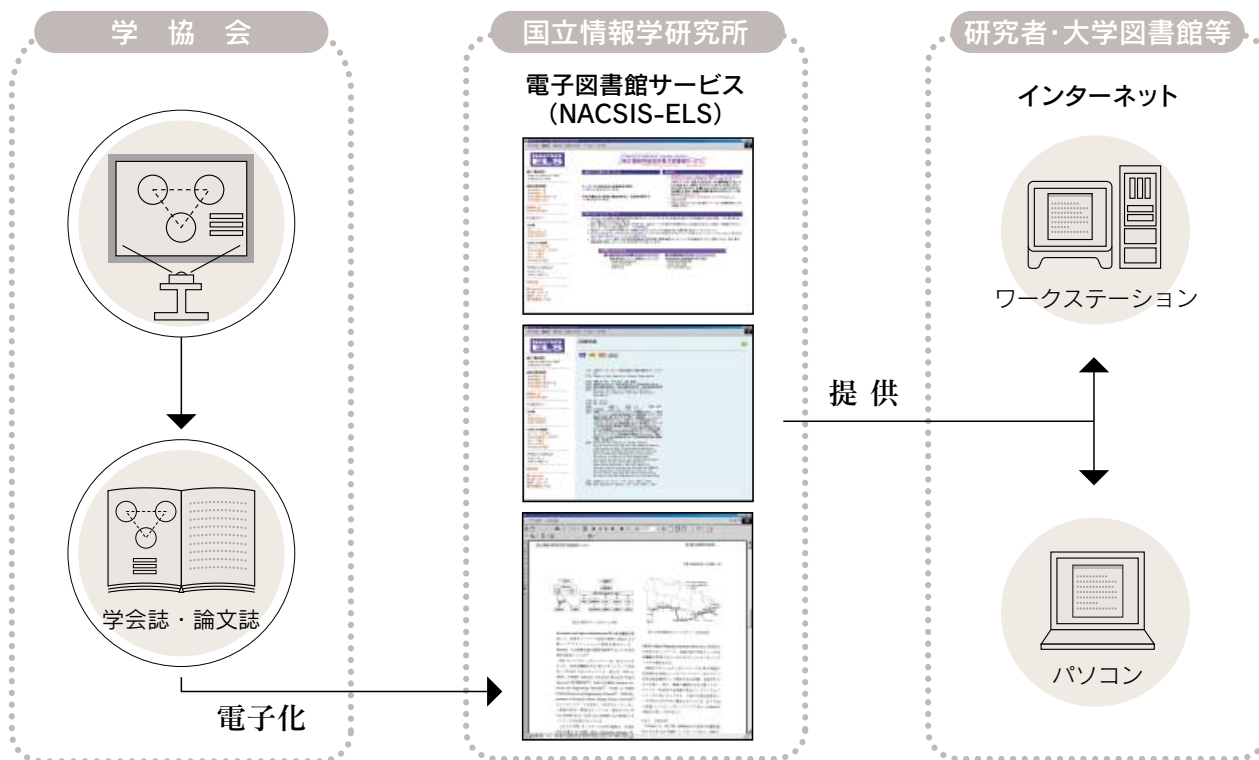
<http://www.nii.ac.jp/els/els-j.html>

電子図書館サービス (NACSIS-ELS: Electronic Library Service) は、学術雑誌のページをそのまま電子化し、書誌情報とともに検索できるようにした情報サービスで、インターネット上で利用できます。研究者等の持つコンピュータで、タイトルや著者名等の情報を手がかりに論文を得ることができるほか、雑誌の表紙や目次から記事を探し、ページをめくるように読んでいくこともできます。また、プリンタへの高品質の印刷も可能です。

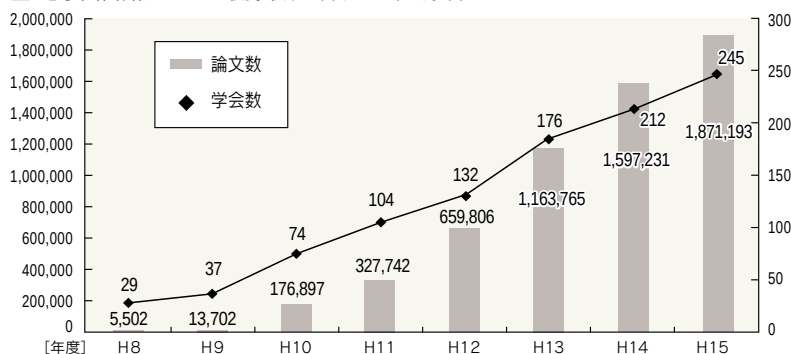
現在の収録状況は、日本の学協会の発行する学術雑誌が中心で、協力学協会の増大により提供可能な情報の拡充に

努めています。平成15年度には新たに30学会以上の参加があり、参加数は約240学会となりました。また、収録論文数は170万論文を越えています。

平成15年度から、NII電子ジャーナルリポジトリ (NII-REO: Repository of Electronic Journals and Online publications) のサービスを開始しました。NII-REOは、大学等と出版者の購読契約にもとづき出版社の電子ジャーナル総合して搭載し、大学等への安定的、継続的な電子ジャーナルの提供を行います。



■ 電子図書館サービス収録状況 (平成16年3月末)



問合せ先
 コンテンツ課 学術情報形成第一係
 TEL 03-4212-2340
 FAX 03-4212-2370
 E-mail : els@nii.ac.jp

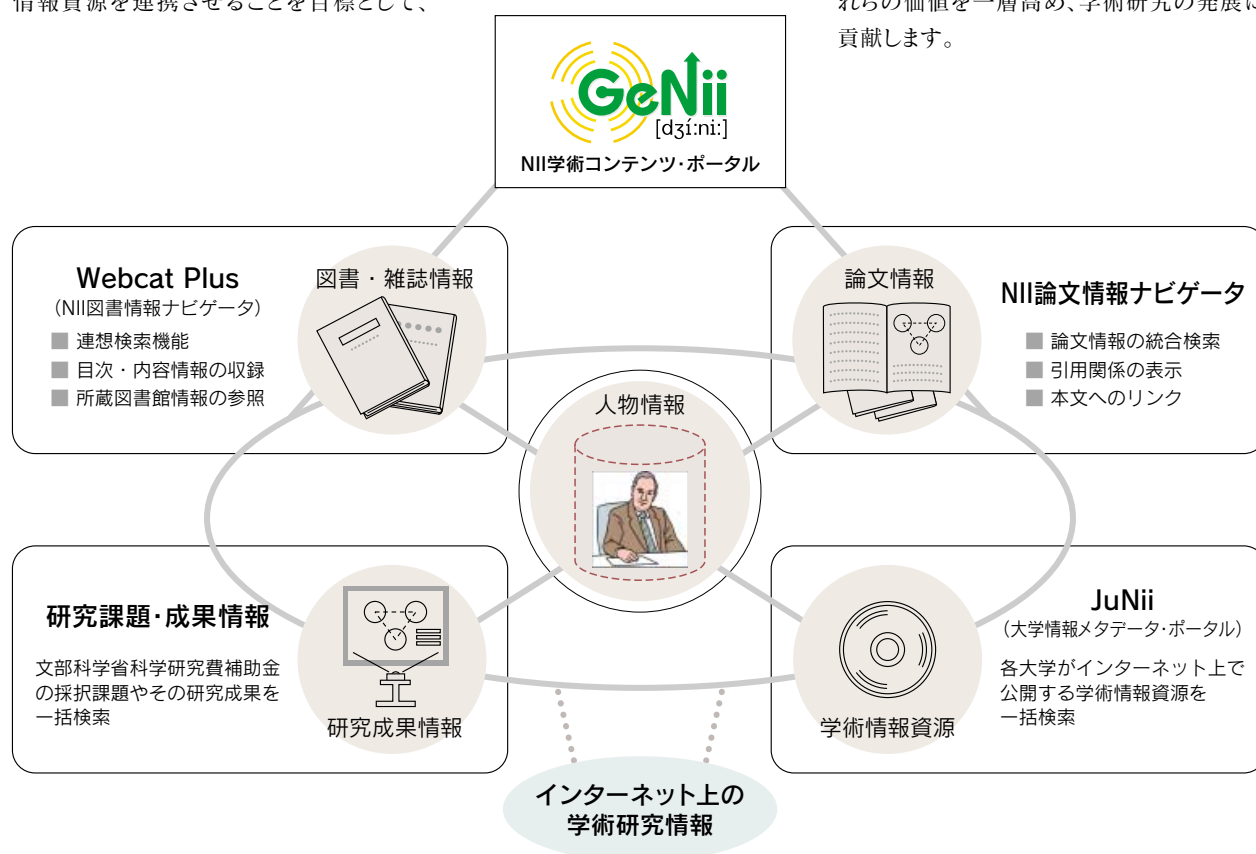
GeNii (NII学術コンテンツ・ポータル)

<http://ge.nii.ac.jp/>

GeNii (ジーニイ Global Environment for Networked Intellectual Information: NII学術コンテンツ・ポータル) は、国立情報学研究所の各種サービスで提供しているコンテンツを始め、インターネット上に点在する国内外の有用な学術情報資源を連携させることを目標として、

学術研究に必要な情報を統合的に利用できる環境の構築を進めています。

従来、各種の目的により作成され、様々な場所に蓄積されている学術情報を相互に関連づけて提供することにより、それらの価値を一層高め、学術研究の発展に貢献します。



■ Webcat Plus (NII図書情報ナビゲータ)

漠然としたテーマからでも適切な図書を見つける手助けをする「連想検索機能」(研究系で開発された汎用連想計算エンジンを使用)を備えた検索サイトで、誰でも無料で利用できます。現在、日本語図書のみを収録していますが、海外の図書や雑誌の情報も収録した次世代Webcatとして、開発・整備を進めています。

■ NII論文情報ナビゲータ

様々な情報源からの論文情報を統合したデータベースを核とし、本文や引用文献へのナビゲーションを可能とした論文情報の統合検索サイトです。実証研究センターとの連携により研究系や外部の基礎研究成果を応用した先進的なシステムの開発を進めています。

■ 研究課題・成果情報

さまざまな研究プロジェクト情報の提供を想定していますが、まず、文部科学省科学研究費補助金(科研費)の交付決定情報と交付後の成果情報を統合したデータベースの開発を進めています。

■ JuNii (大学情報メタデータ・ポータル)

全国の大学・研究機関がインターネット上に発信している教育・研究成果を始めとした、学術情報資源へのポータル機能を担うもので、平成16年3月現在、全国266の大学・研究機関により共同構築を進めています。

これらの新しい機能等を反映した正式サービスは、平成17年4月から開始予定です。

問合せ先/コンテンツ課 学術ポータル係

TEL 03-4212-2330 FAX 03-4212-2375 E-mail : geniadm@nii.ac.jp

研究協力・知的財産

国立情報学研究所では、科学研究費補助金、民間等との共同研究、受託研究等の外部資金による研究を積極的に進めるとともに、知的財産の創出・取得・管理を行い、知的財産の活用による社会貢献を推進しています。

研究協力

■ 科学研究費補助金（平成15年度）

研究種目	件数	交付決定額(千円)
基盤研究(A)(1)	1	9,100
基盤研究(A)(2)	2	38,740
基盤研究(B)(1)	1	4,300
基盤研究(B)(2)	8	30,800
基盤研究(C)(2)	10	12,600
若手研究(A)	3	28,730
若手研究(B)	14	16,678
特定領域研究(2)	10	72,600
特別研究員奨励費	4	4,400
研究成果公開促進費	5	64,100
計	58	282,048

■ 科学技術振興調整費

1 214,644

■ 産学官連携による受入（平成15年度）

	件数	受入決定額(千円)
民間等との共同研究	9	17,666
受託研究	12	74,183
奨学寄附金	30	48,930

■ 共同研究

国立情報学研究所は、大学共同利用機関として、全国の国公私立大学等の研究者に交流、研究の場を提供するため、公募による共同研究を積極的に行っており、平成15年度は77件の共同研究を実施しました。

■ 各種研究員等の受入数（平成15年度）

区分	人数
外国人研究員	3
非常勤研究員	6
リサーチ・アシスタント	15
研究支援推進員	7
科学研究支援員	19
科学技術振興研究員	4
産学官連携研究員	15
大学院学生研究支援員	18
日本学術振興会外国人特別研究員	5
中国政府派遣研究員	1
計	93

問合せ先／研究協力課 研究協力係

TEL 03-4212-2105 FAX 03-4212-2120 E-mail : E-mail : kenkyou@nii.ac.jp

知的財産

■ 発明件数

■ 平成15年度発明届出件数及び特許出願件数

届出件数	帰属		特許出願件数
	国帰属とされたもの	個人帰属とされたもの	
9件	2件	7件	2件

■ 大学共同利用機関知的財産本部

大学等における知的財産の創出、取得、活用を戦略的に実施する体制整備の支援を目的とした、平成15年度文部科学省委託事業「大学知的財産本部整備事業」に、13の大学共同利用機関が連合した形で当国立情報学研究所を代表機関として申請し採択されました。

この事業は5年間のプロジェクトで、それぞれに特徴のある大学共同利用機関の知的財産を活かすため、各大学共同利用機関法人に知的財産本部を整備し、知的財産の活用等について積極的に推進していきます。

大学共同利用機関知的財産本部整備事業参加機関

人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館

自然科学研究機構

国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所

高エネルギー加速器研究機構

素粒子原子核研究所、物質構造科学研究所

情報・システム研究機構

国立極地研究所、国立情報学研究所、統計数理研究所、国立遺伝学研究所

問合せ先／知的財産本部

TEL 03-4212-2125 FAX 03-4212-2187 E-mail : chizai-staff@nii.ac.jp

研究成果の普及

国立情報学研究所では、情報学に関する研究の成果を幅広く社会に還元するため、講演会・シンポジウム等の開催や出版物・広報誌の刊行などを行っています。

オープンハウスの開催

研究者、大学院入学希望者や一般の方も含めた幅広い層を対象に、研究所の諸活動や研究成果を紹介する「オープンハウス（一般公開）」を開催するなど、開かれた研究所として外部にも公開しています。



NIIオープンハウス
(平成15年5月)

公開講演会の開催

研究所が進めている研究開発や事業活動等に関連した今日の課題をテーマとして発表・討議する「国立情報学研究所公開講演会」を関西会場と東京会場とで開催しています。



公開講演会
(関西会場 平成15年12月)

シンポジウム・研究会等の開催

情報学研究について、国内外の研究者等と幅広い視点から討議するシンポジウムやワークショップを開催しています。また、情報学研究に関心のある研究者・技術者の交流の場として「NII情報学オープンフォーラム」を随時開催し、研究所内外の研究者による研究発表等を行っています。

DATABASE 2003 TOKYO (平成15年10月)

出展

研究所の研究成果や情報サービス等について展示会等に出展し、社会への普及に努めています。



公開講座・セミナー等の開催

一般の方を対象とした公開講座・セミナー等についても、随時実施しています。とくに国際高等セミナーハウスを会場として年8回開催している「軽井沢土曜懇話会」は、研究所内外の研究者・有識者を講師に迎え、地域密着型の事業として定着しており、講演ビデオのインターネット配信や講演集の刊行など講演記録の公開も積極的に行っています。

また、情報学に関連したテーマで「NII市民講座」を定期的に開催しています。

NII市民講座
(平成16年2月)



軽井沢土曜懇話会
(平成15年6月)

出版物の刊行

研究所の研究成果を図書や定期刊行物として公表します。

■ NII Journal

研究所の研究活動に関する論文等を掲載する機関誌。年2回刊行。関係各機関へ送付するとともに、電子図書館サービス (NACSIS-ELS) においても公開しています。

■ NII Technical Report

研究所の研究活動に関する論文や投稿原稿、マニュアル等の研究成果を出典の明らかな形で速やかに外部へ公開するために、テクニカル・レポートを発刊しています。国立情報学研究所のホームページから参照できます。

■ 情報学シリーズ

研究所教員の研究内容や研究所が開催する講演会等の発表内容をまとめた単行書を国立情報学研究所監修の下に「情報学シリーズ」として刊行しています。

問合せ先
広報普及課 成果普及係
TEL 03-4212-2145 FAX 03-4212-2150
E-mail : seika@nii.ac.jp

国際展開

国際交流協定

国立情報学研究所は、海外の諸機関との協力を研究・事業の両面で積極的に実施しています。また、平成15年1月にはグローバル・リエゾンオフィスが設置され、国際交流協定の



INRIAと国際交流協定を締結（平成16年2月16日）

締結等の国際的事項について審議しています。
現在、以下の機関と協定を締結しています。

米国	ミシガン大学計算機・情報科学科
	Institute for Scientific Information, Inc. (ISI)
	ワシントン大学(シアトル)工学部
フランス	ナント大学ナント大西洋計算科学研究所
	国立情報・自動制御研究所 (INRIA)
イギリス	ロンドン・ユニバーシティカレッジ
タイ	チュラロンコン大学
	アジア工科大学
中国	清華大学マイクロ波デジタル通信国家重点実験室
ベトナム	ハノイ工科大学マルチメディア情報・通信応用国際研究センター (HUT/MICA)
その他	UNESCO
	北米日本研究資料調整協議会 (NCC)

(平成16年4月)

海外の日本研究機関・図書館との協力

欧州・アジアなど海外で日本語資料を扱う研究図書館や日本研究機関など、47の大学・機関が国立情報学研究所の目録システム (NACSIS-CAT) に参加しています。現在、これら

海外の大学・機関により34万件以上の学術文献の所蔵登録が行われています。

海外の目録システム参加機関（平成16年3月末）					
英国	英国図書館オリエンタル・コレクション部	ドイツ	マールブルク大学日本研究センター 図書館、宗教学図書館	中国	武漢大学図書館
	ケンブリッジ大学図書館		ベルリン国立図書館		南京大学図書館
	オックスフォード大学ボドリアン図書館		チュービンゲン大学 日本文化研究所図書館		中山大学図書館
	シェフィールド大学日本研究センター	ベルギー	ルーバンカトリック大学 東アジア図書館		吉林大学図書館
	スターリング大学図書館		スイス		天津図書館
	ロンドン大学東洋・アフリカ研究学部図書館		チューリヒ大学東洋学部 日本学科図書館		中国東北大学図書館
	国際交流基金ロンドン日本語センター	スウェーデン	ストックホルム大学図書館		遼寧省図書館
	大英博物館日本美術部門		米国		華東師範大学図書館
	日本貿易振興機構 (JETRO) ロンドン・センター		アラスカ大学地球物理研究所		中国人民大学図書館
	セインズベリー日本藝術研究所	タイ	コロンビア大学ティーチャーズ カレッジ(在日機関)		清華大学図書館
ドイツ	デュースブルク大学東アジア研究所		国際交流基金バンコック 日本文化センター		大連外国語学院図書電教館
	ハイデルベルク大学日本学研究室	中国	北京日本学研究センター図書資料館		廈門大学図書館
	ミュンヘン大学日本学科		中国農業大学図書館		復旦大学図書館
	国際交流基金ケルン日本文化会館		大連理工大学図書館		上海交通大学図書館
	ベルリン日独センター		北京大学図書館		中国社会科学院文献信息中心
	ドイツ「恵光」日本文化センター				中国国家図書館
				韓国	翰林大学校翰林科学院日本学研究所
					慶尚大学校図書館

外国人研究員の受入れ（平成16年度）

氏名・国籍	研究課題	招へい期間
ANGELINO, Henri (フランス)	情報学研究と高等教育における日仏共同プログラムの企画と推進	平成12年12月1日～平成17年3月31日
HOULE, Michael E (カナダ)	近似類似性検索法によるスケーラブルクラスタリングと分類に関する研究	平成16年2月1日～平成17年3月31日
AMPORNARAMVETH, Vuthichai (タイ)	共生型知能ロボットのヒューマンインタフェースおよび分散知能プラットフォームの研究	平成14年4月1日～平成16年3月31日

■ 在外研究員派遣（平成15年度）	2
■ 国際研究集会派遣研究員（平成15年度）	5
■ 外国人来訪者の受入れ（平成16年3月末）	58

NII国際シンポジウムの開催

国立情報学研究所では、平成14年度から定期的にNII国際シンポジウムを開催しています。

第1回として、「電子図書館と電子ジャーナル：新しい挑戦」をテーマとして、平成15年3月5日に国連大学ウ・タント国際会議場において開催しました。

第2回として、ユネスコ(国連教育科学文化機関)、日本ユネスコ国内委員会、財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)、国立情報学研究所の開催により、平成15年12月10日～12日に奈良県新公会堂において、「デジタル・シルクロード」奈良シンポジウムを開催しました。



第2回NII国際シンポジウム「デジタル・シルクロード」奈良シンポジウム
(奈良県新公会堂 平成15年12月)

学術情報サービスの国際展開

■ 図書館間相互貸借システム (NACSIS-ILL)
英国図書館原報提供センター (BLDSC) の相互貸借システム (ARTTel) と接続し、国内機関と同様の文献複写や現物貸借の申し込みが可能になっています。また、米国との間でも日米文化教育交流会議(カルコン)の提言を受けて、日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクトを実施し、その成果として、日米の大学図書館間でのグローバルILLの運用を平成14年度から開始しています。また、韓国との間でもグローバルILLの運用について準備を進めています。

■ 情報検索サービス (NACSIS-IR)
海外の大学・研究機関に対して、国立情報学研究所が企画・作成したデータベースを中心にサービスを行っています。

■ 電子図書館サービス (NACSIS-ELS)
海外の大学・研究機関に対して電子図書館サービスの提供を行っており、我が国の学協会が発行する学術雑誌を海外からも利用することが可能となっています。

問合せ先／国際課 国際企画係
TEL 03-4212-2165 FAX 03-4212-2180 E-mail : int-op@nii.ac.jp

研修事業

専門研修

大学等の学術研究機関において学術研究活動支援の中核的な役割を担う職員を養成するため、専門的かつ高度な知識と技術の修得を目的とした研修を実施しています。

- 国立情報学研究所セミナー
実際の研究活動を体験することで学術研究支援活動の中核となる人材を養成する研修
- 情報処理軽井沢セミナー
高度化する学術情報基盤の環境に対応できる情報処理の最新技術・理論を修得する研修
- 情報セキュリティ担当者研修
情報セキュリティに係る最新かつ高度な知識及び専門技術を修得する研修
- 情報ネットワーク管理担当者研修
機関内LAN等の構築・運用管理等に係る基盤技術を修得する研修
- 学術ポータル担当者研修
情報発信・学術ポータルの策定・管理運用に係る最新かつ高度な知識及び専門技術を修得する研修
- 学術情報リテラシー教育担当者研修
学術情報リテラシー教育において中核的な役割を担う人材を養成する研修
- 総合目録データベース実務研修
目録所在情報サービス参加図書館等において指導的役割を担う人材を養成する研修



情報処理軽井沢セミナー

講習会

目録所在情報サービスの業務担当者を対象とした講習会を開催しています。

また、受講機会の拡大を図る目的で、各大学図書館等との共催による地域講習会を開催しています。

講習会の種類は次のとおりです。

- 目録システム講習会 (図書コース・雑誌コース)
- ILLシステム講習会



目録システム講習会

自習システムの提供

従来の集合型の講習会とは別に、インターネットを介して自習できる環境の整備を行って、担当者の学習機会の拡大を図っています。現在、NACSIS-ILLの自習システム (NACSIS-SL) のサービスを提供しています。

大学・学会等の利用者講習への支援活動

研究所の各サービスについて、大学・学会等が独自に実施する講習会や授業等に対して、講習用資料等の提供や事業のカリキュラム相談、利用者番号の貸与等の支援活動を行っています。

国際研修

関連機関と協力して、海外の学術研究機関の情報専門家や研究支援職員を対象とした研修を実施しています。

所員・決算

所 員 (平成15年度)

区 分	所 長	副所長	教 授	助 教 授	助 手	小 計	事務系	計
職 員	1	1	31	29	15	77	66	143
客 員			9	7		16		16
外 国 人 客 員			2			2		2
外 部 研 究 員								95*
非 常 勤 職 員								55*
大 学 院 生								87*

* 平成16年5月現在 現員数

決 算 (平成15年度)

■ 収入

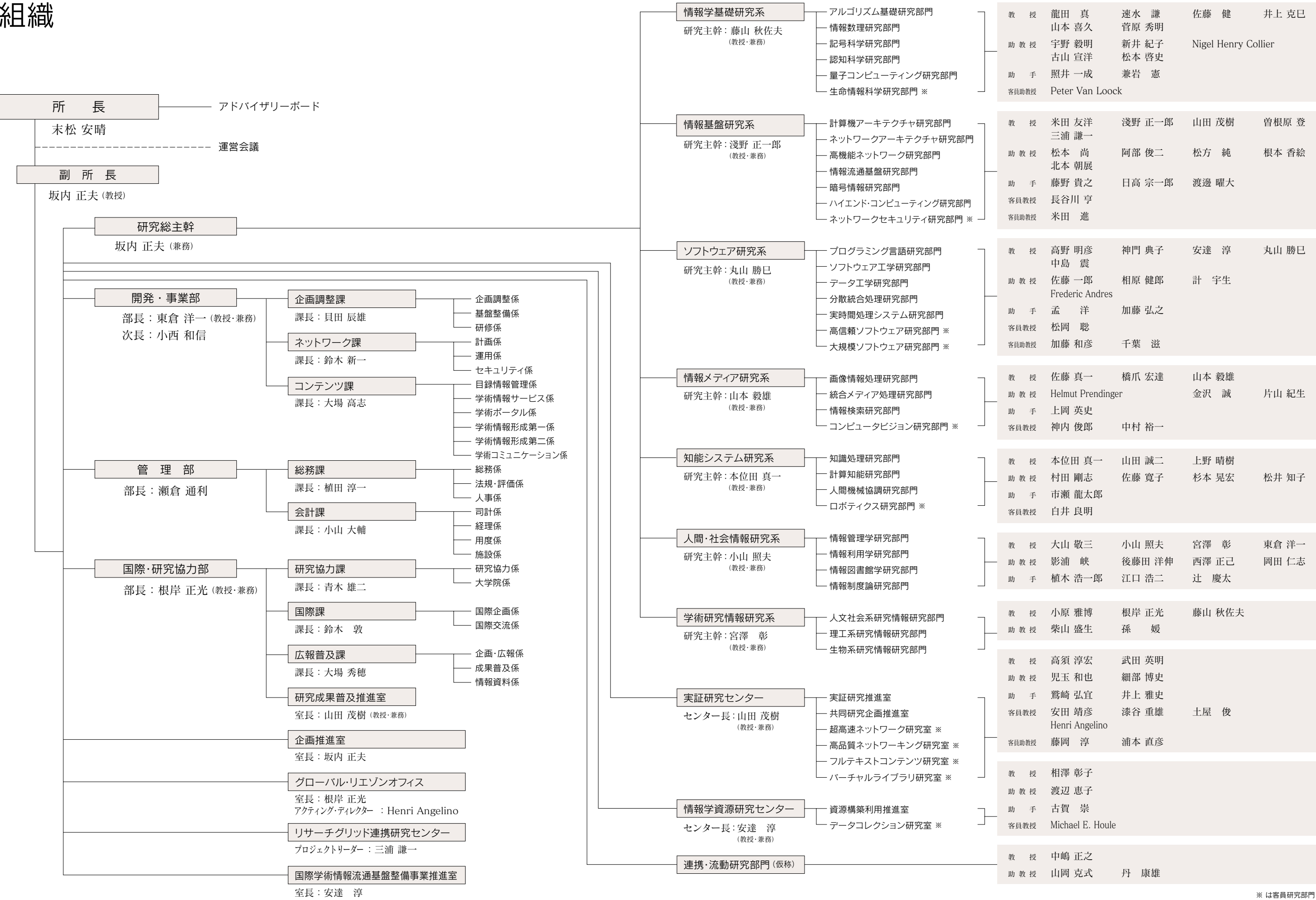
(単位：千円)

区 分	金 額
産学連携等研究収入	1,321,768
雑 収 入	109,676
科学研究費補助金	297,171
計	1,728,615

■ 支出

(単位：千円)

区 分	金 額
人 件 費	1,359,544
物 件 費	12,062,180
研 究 費 等	9,561,275
産学連携等研究費	1,154,189
施 設 費	1,049,545
科学研究費補助金	297,171
計	13,421,724



大学院学生一覧

総合研究大学院大学 情報学専攻

(平成16年4月現在)

ALEXANDER IMRE KOVACS

ANDAROODI ELHAM

大向 一輝

梶山 朋子

上岡 恵子

鴨川 隆明

川崎 直之

KAFLE BED PRASAD

KIATISEVI PATTARA

清見 礼

來間 啓伸

GODARD Jerome

小林 一樹

関 洋平

田中 聡

DUVAL SEBASTIEN JEAN

中島 慶人

中山 記男

中渡瀬 秀一

成瀬 一明

沼 晃介

MD. HASANUZZAMAN

橋本 紅

濱崎 雅弘

BANDITWATTANAWONG THEPPARIT

HUDA MD. NURUL

船越 誠

PLATON ERIC

PHURITATKUL Jumpot

山田 太造

山中 秀夫

LI LEI

LI MING MEI

WANG YUXIN

LE DUY DIINH

WATTARUJEEKRIT Tuangthong

(以上五十音順)

受託大学院(特別共同利用研究員)

(平成16年4月現在)

東京工業大学大学院総合理工学研究科

鈴木 聡

早稲田大学大学院理工学研究科

鄭 顕志

武藤 宏美

(以上五十音順)

電気通信大学大学院情報システム学研究科

岡本 直之

竹之内 隆夫

(以上五十音順)

連携大学院

(平成16年4月現在)

東京大学大学院情報理工学系研究科

Ahmad Sufian

石川 冬樹

于 川

宇都宮 聖子

小澤 武

菊部 卓哉

NGUYEN KHANH NGOC

小西 康介

鈴木 康平

清 雄一

趙 青

沈 恒偉

土肥 拓生

東京大学大学院情報理工学系研究科

中村 岳

細羽 啓司

正田 備也

松崎 和賢

山岸 史典

山郷 成仁

劉 智星

若木 裕美

(以上五十音順)

東京工業大学大学院総合理工学研究科

山崎 あぐり

※ 氏名掲載を了承した学生のみ掲載しています。

施設・所在地

国立情報学研究所 National Institute of Informatics

<http://www.nii.ac.jp/index-j.html>

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター内
TEL.03-4212-2000(代表)

グリッド研究開発推進拠点 Center for Grid Research and Development

<http://www.naregi.org/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 神保町三井ビルディング14F
TEL.03-4212-2857

学術総合センター

学術総合センターは、我が国の学術研究基盤の充実強化を図るため、情報学等の研究、学術の交流、学術情報の発信、社会との連携の拠点施設として建設され、平成11年12月に竣工しました。高層棟は、国立情報学研究所をはじめ、一橋大学大学院国際企業戦略研究科、独立行政法人国立大学財務・経営センター（一部）等の機関が入居し、各機関が有する学術に関する諸機能を総合的に発揮することにより、高度の知的創造拠点の形成を目指しています。また、低層棟は、国立大学法人一橋記念講堂などの会議施設となっており、国立大学法人等による国際会議や学会、講演会等に幅広く対応しています。



一橋記念講堂

情報資料センター

情報学分野の内外の学術雑誌を中心に、図書・雑誌等の資料を収集しており、情報学の研究・教育用の情報資料センターとして整備を進めています。



書庫



閲覧室

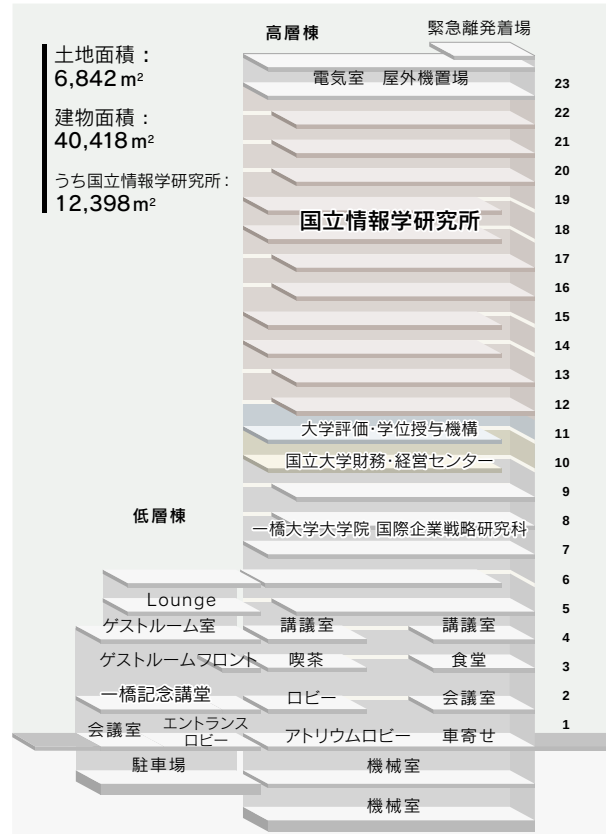
蔵書冊数・雑誌タイトル数
(平成16年4月末)

資料種別	図書(冊)	製本雑誌(冊)	雑誌(タイトル数)
国内資料	7,673	8,175	211
国外資料	6,546	3,488	270
計	14,219	11,663	481

■ 主要なオンラインジャーナル・データベース

サービス名称	出版社
1 ACM Digital Library	ACM
2 MathSciNet	AMS
3 CSLSP-e	IEEE Computer Society
4 COMSOC DL	IEEE Communications Society
5 Encyclopedia of Library and Information 2nd. ed. online	Marcel Dekker

国立情報学研究所



学術総合センター内 12F～22F

- 22 所長室 副所長室 管理部長室 総務課 会計課
- 21 開発・事業部長室 開発・事業部次長室 企画調整課 ネットワーク課 コンテンツ課
- 20 国際課
- 19 国際・研究協力部長室 研究協力課 教官研究室 情報・システム研究機構 知的財産本部
- 18 研究総主幹室 教官研究室 広報普及課 情報資料センター
- 17 教官研究室 共通機器室
- 16 教官研究室 マルチメディア実験室
- 15 教官研究室 共通機器室 セミナー室
- 14 教官研究室 大学院生研究室 学生ラウンジ
- 13 教官研究室 実証研究センター オープンラボラトリー 情報学資源研究センター
- 12 会議室 講義室 大学院セミナー室 セミナー室

グリッド研究開発推進拠点

グリッド研究を推進するため、学術総合センターに近接するビルに拠点となる場所を設け、リサーチグリッド連携研究センターを置き、産学官の協力体制の強化を図りました。

施設・所在地

千葉分館 Chiba Annex

〒263-0022 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-8
TEL. 043-285-4911(代表)

国際高等セミナーハウス International Seminar House for Advanced Studies Inose Lodge

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字長倉往還南原1052-471
TEL. 0267-41-1083

千葉分館（千葉市稲毛区）

学術情報システムの運用や各種学術情報サービスの提供を行う計算機システム及び学術情報ネットワーク関連の機器類を配置する電子計算機棟として、国立大学法人 東京大学生産技術研究所千葉実験所の敷地内に建設され、平成6年11月に竣工しました。



土地面積
(借用分)
1,782m²
建物面積
3,715m²

国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢町）

国際的な研究交流の場として、長野県軽井沢町に建設され、平成9年3月に竣工しました。国際会議、各種セミナー、研修等に使用することを目的として、セミナー室(46人収容)や宿泊室等を設けており、国立情報学研究所はもとより、大学共同利用機関法人の施設として、広く大学法人等の利用に供しています。

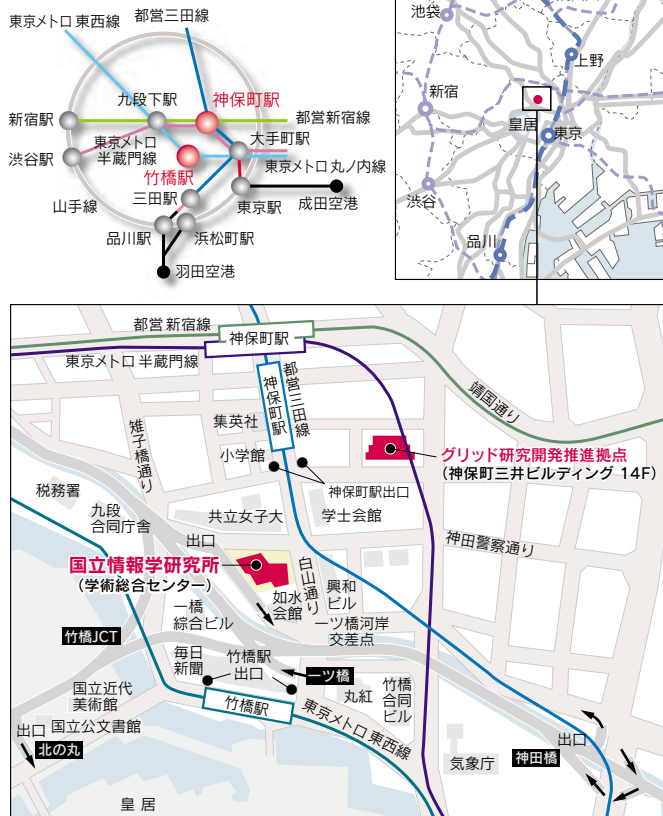


国際高等セミナーハウス
におけるセミナー

土地面積
3,339m²
建物面積
667m²

各施設案内図

- 国立情報学研究所
- グリッド研究開発推進拠点



千葉分室



国際高等セミナーハウス



National Institute of Informatics